

第2章

解題

目次

I 作品

I-01	アメリカに関する本・他国を理解する本	29～32
I-02	英米などの古典的な作品	33～35
I-03	幼年文学	36～37
I-04	児童文学作品	38～39
I-05	映画関連作品	40
I-06	伝承文学	41
I-07	知識の本	42～43

II 絵本

II-01	クリスマス絵本	44
II-02	ネコ絵本	45
II-03	ユーモア絵本	46
II-04	動物絵本	47～48
II-05	リトグラフ絵本	49～50
II-06	物語絵本	51～52
II-07	乗り物絵本	53
II-08	知識絵本	54
II-09	写真絵本	55
II-10	しかけ絵本	56
II-11	ディズニー絵本	57

III 特集

1	“A Little Golden Book”(1942年12冊から)	58
2	Mother Goose 絵本、A Child's Garden of Verses、詩集	59～60
3	Little Black Sambo 絵本	61
4	Peter Rabbit 絵本	62
5	『クマのプーさん』のアメリカにおける人気	62

*この解題は、「バル・コレクション」の特徴を浮かび上がらせる選書をしており、いわゆる「良書リスト」ではありません。また、最初に寄贈されたものに、少数のその後に受け入れた作品が入っています。時代を表徴する作品を選択していますので、今日では、差別的とみなされる作品や表現も含まれていますが、ご理解の上ご利用ください。

*翻訳作品の多くは、解題で取り上げる作品を忠実に再現しているものではありません。

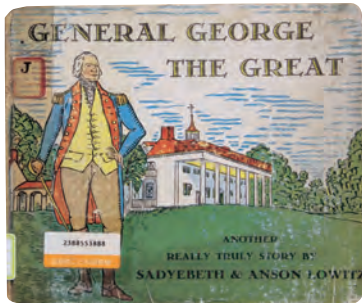
凡 例

- ・作品に関する記載事項は、解題番号（上段）、コレクション番号（下段）、書名、著編者・画家名、出版社、出版年、ページ数（1vとしているものは、ページ数記載なし）、大きさの順になっている。
- ・大きさの次に「☆」を記載した資料は、ベル博士とは別の団体等から寄贈されたものである。
- ・文中のゴシック体番号は、ベル・コレクションのコレクション番号である。

I-01-01 **General George the Great**

381

Sadyebeth Lowitz 作 / Anson Lowitz 作 Grosset & Dunlap 1932 1v 19cm

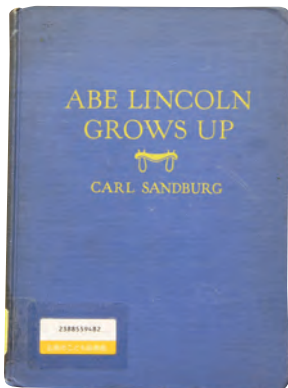


“A Really Truly Stories” シリーズの1冊。ジョージ・ワシントンの誕生から大統領になり故郷のマウント・バーノンに戻ってくるまでの生涯を、ページ毎に真ん中に大きく横長枠をとって絵を入れ、上下の余白に短い文章をつけて、幼児にもわかる伝記に仕上げている。カラーと白黒のページが交互にあり、時々頭や足が枠をはみ出している絵にはユーモアがある。この作以後も成人するまでに様々なワシントン伝に出会うのであろうが、その最初の入門書である。なお、「ベル・コレクション」には、ワシントンの子ども時代の伝記34 *George Washington*, 1942と、最初のファースト・レディ、ワシントン夫人マーサの伝記274 *Martha: Daughter of Virginia*, 1947が所蔵されている。

I-01-02 **Abe Lincoln Grows Up**

33

Carl Sandburg 文 / James Daugherty 絵 Harcourt, Brace 1928 222p 24cm



Carl Sandburg (1878-1967) は、詩人で、「アブラハム・リンカーン伝記」全6巻や児童文学作品『ルータバガ物語』1920の作者として著名である。サンドバーグのリンカーン伝の最初の2巻 *Abraham Lincoln: the Prairie Years*, 2vols (1926) の最初の27章に、James Daugherty (1889-1974) がさし絵を入れた版が本書である。幼年期から19歳で故郷を離れるまでの物語である。章毎にカットと1ページ大の絵がついている。作者の文から湧き上がってくるイメージを流れるような線で再現しており、ドラマ性（奴隷を物のように売る商人のいる市場の状景 (p.219) など) の高いさし絵である。

翻訳：『エブラハム・リンカーン（I）大草原時代』カール・サンドバーグ〔著〕／坂下昇訳 新潮社 1972

I-01-03 **Broad Stripes and Bright Stars**

363

Beatrice B. Grover 文・絵 Greystone Press 1941 1v 23cm

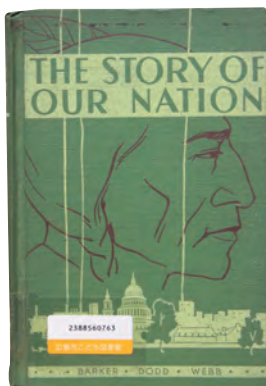


Groverが作ったのは、星条旗 (The Stars and Stripes) がどのようにつくられたのかの物語である。母親イギリスから独立した13人の子どもたちコロニー (東部13州) のそれぞれの個性を紹介し、今後、自分たちをコロニー (植民地) ではなくステイツ (国) と呼ぶことにし、国名を United States of America と決め国旗を制定するまでを説明しており、多様性のある国を象徴するアメリカ国旗の成り立ちが誇りを持って語られている。「ベル・コレクション」には、Maud & Miska Petersham の 447 *An American ABC*, 1941 がある。アメリカのつくし絵本で、国章のデザインに使われているハクトウワシが羽を広げて眠っている男の子を見下ろしている “A is for AMERICA / The land I love” で始まっている。

I-01-04 **The Story of Our Nation**

25

Eugene C. Barker 作/Walter P. Webb 作/William E. Dodd 作 Row, Peterson 1937 (初版1929) 426p 21cm



出版者が入れた序文に「『私たちの国の物語』は、広大な荒地から世界最強の国家のひとつになるまでを、わかりやすく連続した物語として語っている。」とある。白人によるアメリカ発見、合衆国の建設、合衆国の発展、南北戦争による連邦の危機、現代のわが国、の5部構成になっている。第5部では、「機械工業」と「自動車と飛行機」の節が設けられている。考証を踏まえた歴史画と精緻な地図が随所に入っている。歴史学者三名の共著であるが、そのうちのひとりEugene C. Barker (1874-1956) は、子どものための歴史書を残しておりテキサス大学の“The Eugene C. Barker Texas History Collection”はバーカーの寄贈本を中心に設立され、現在もアメリカ史研究に寄与している。

I-01-05 **The First Thanksgiving**

16

Lena Barksdale 文/Lois Lenski 絵 Alfred A. Knopf 1944 (初版1942) 57p 19cm



1620年に英国からMayflower号でアメリカに渡ってきた清教徒が、翌年の秋、最初の収穫を神に感謝した“Thanksgiving Day”は、誰もが知っている歴史である。その祭日を、作者Lena Barksdaleは、視点を9歳の少女Hannahにおいて、まるで実況放送をしているように、家族とともに祖父母の家に出かけ、数多い親戚と出会い、第一世代の祖母の語りで「最初の感謝祭」のことを事細かに聞く物語に仕立てた。祖母はインディアンも同席しているのは、あるものをみんなで分け合い空腹にさせない精神からであることを教える。Lois Lenskiには多数の著作があるが、普通の人びとの暮らしが歴史と繋がっているこの物語への共感から本書にさし絵をつけた。

I-01-06 **The Stories of Great American Heroes**

30

William H. Mace 作/Homer W. Colbyほか 絵 Rand McNally & Company 1941 64p 17cm

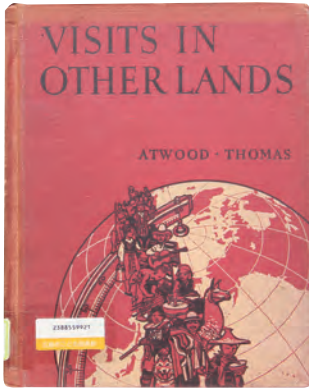


本書は、“American Patriot's Series”（「アメリカ愛国者シリーズ」）の1巻で、著者は歴史学者William H. Mace (1852-1938)である。出版当時亡くなっており、さし絵は原著の線画から採ったとあるので子ども向けに再版されたものと推察される。「自由を与えよ、然らずんば死を！」と叫んで独立をもたらしたPatrick Henry、「エリー湖の湖上戦」（表紙絵を飾っている）で勝利したOliver Hazard Perry、モールス電信機の発明家Samuel F. B. Morseなど歴史上の英雄11名が取り上げられている。歴史を踏まえたさし絵も良質である。「ベル・コレクション」には、29 *The Stories of Great American Explorers & Pioneers*, 1941があり、両書とも表紙の厚紙の角が丸くなっており愛読されていたと推測される。

I-01-07
35

Visits in Other Lands

Wallace W. Atwood 作/Helen Goss Thomas 作/Marjorie Quennell 絵 Ginn 1947 (初版1943) 216p 26cm

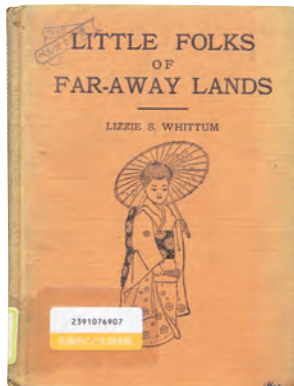


著名な地理学者Wallace W. Atwood (1872-1949) と Helen Goss Thomas (b.1890) の文に、日用品から歴史を見るというユニークな視座をもち博物館員でもあったMarjorie Quennell (1884-1972) がさし絵を担当しており、他国の知識の詰まった豪華本である。それぞれ、固有名詞の名前を持つ、森で生活する子、大草原の子、極北の子、アンデス、エジプト、インド、中国、ノルウェーの子の8例を取り上げている。20ページにわたる中国の場合、養蚕に勤しむLotaから養蚕業の発達した最初の国であることを知り、弟Sumaiの凧揚げで遊びの共通性を学ぶ。また、米作について詳述されており、ふさわしい地理的条件を知る。地理・暮らし・文化の共通点と相違点を地球的視野で知ることができる。

I-01-08
277

Little Folks of Far-Away Lands

Lizzie S. Whittum 作 World Syndicate 1931 112p 20cm

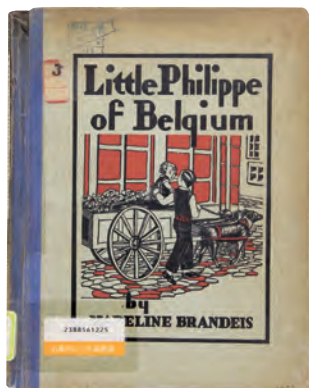


Lizzie S. Whittumの描いたのは、アラスカ、メキシコ、オランダ、スイス、日本に住む5人の子どもがそれぞれに自国を紹介していく物語で、興味性を中心に語られている。日本を例にとると国名の由来やわたしの名前はCherry Blossom (桜) で従妹はIris Blossom (あやめ) というところから、庭の金魚やペットのネコ、イヌへ、虫取りや人形遊び、着物、人力車、紙の家、傘…と話は、断片的に、古くからのイメージを繰り出し繋いでいくにすぎない。本書は、こうした限られたイメージをもとにして安易に「他国を知るための童話」が作られていき、似たような類書が盛んに刊行された時代の一例といえる。

I-01-09
156

Little Philippe of Belgium

Madeline Brandeis 作 Grosset & Dunlap 1930 189p 22cm



Madeline Brandeis (1897-1937) が、新しく拓いたシリーズの一冊である本書は、分類すれば「他国を知る知識の本」に入るのだろうが、登場人物の配役を決めて子役や俳優が演じている写真が使われている新しいタイプの物語である。映画の隆盛と子役人気背景にあったことは間違いない。ベルギーはブリュッセルの人気シェフの息子Philippeが、キャバツ畑で妹を探しまわるような子どもだったが、ついに妹が生まれ、愛国的な若者に育っていき、危ない冒険を体験したあと、シェフになって静かに故郷で暮らそうと考えるに至る物語である。現在では、当時の写真技術の限界がよく見える。「ベル・コレクション」には154 *Little Anne of Canada*, 1931 と155 *Little Farmer of the Middle West*, 1937も所蔵されている。

I-01-10 **Happy Times in Czechoslovakia**

916

Libushka Bartusek 作/Yarka Bures 絵 Alfred A. Knopf 1946 (初版, 1940) 62p 27cm ☆



Libushka Bartusek作の連作短編童話とYarka Buresの絵には、近代化以前のチェコの伝統的な暮らしが“Happy Times”として描かれている。8話の中から第5話の“Harvest”（収穫）を取り出してみると、収穫期のお天気の良い日に、Marushka一家総出で麦を刈る高揚した雰囲気や物語にあふれ、野辺に吊るされている赤ん坊の世話をする妹Yurkaや荷馬車に乗っているときの楽しさなどが伝わってくる。さし絵には、刺繍などでよく見る民芸画の花束、教会をはるかに望む畑の景色、木彫りに伝統模様で彩色されているおもちゃなどが描かれている。Roosebelt夫人Eleanorは、「献辞」でチェコの子ども時代に触れて、自分たちの伝統を大切にすする心が養えることを評価している。

I-01-11 **Hans Brinker or the Silver Skates**

189

Mary Mapes Dodge 作 M. A. Donohue (出版年不明) 352p 20cm



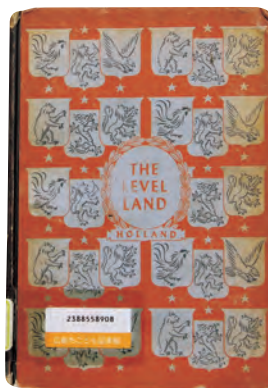
Mary Mapes Dodge (1831-1905) は、児童雑誌“St. Nicholas Magazine”の編集長として多くのアメリカの作家を育てたが、本書*Hans Brinker*, (初版1865) は、オランダの文化と歴史上の知識に裏打ちされているこの種の歴史物語の先駆となり、アメリカの創作児童文学の古典である。事故で記憶喪失になった父親のもとで、ハンスとグレーテルの兄妹が、貧しい暮らしを余儀なくされてもめげずに幸せをつかむ物語で、スケート大会の場面やオランダの地理や歴史がうまく織り込まれたプロットが巧みである。「ベル・コレクション」には、もう1冊188 *Hans Brinker*がある。

翻訳：『銀のスケート ハンス・プリンカーの物語』M. M. ドッジ作/ヒルダ・ファン・ストックム絵/石井桃子訳 岩波少年文庫 岩波書店 1988 (旧版：『ハンス・プリンカー』1952)

I-01-12 **The Level Land : Holland**

931

Dola De Jong 文/Jan Hoowij 絵 Charles Scribner's Sons 1946 165p 21cm ☆



Dola De Jong (1911-2003) は、ナチスの侵入する数日前にオランダを離れ、後にアメリカに渡り、第二次世界大戦中の経験や歴史から材料をとった作品を刊行している作家である。本書は、1939年の秋から翌年の夏にかけて、オランダの静かな田舎の村に住む医者ファン・オルト一家の5人の子どもの物語で、ドイツ軍の侵入によって、どういうことが起こっていったかを丁寧に語っており、ロッテルダムの大空襲のあと、オランダは降伏し、その後どうなるのか不安な時代を迎えるところで終わっている。続編に*Return to the Level Land* (翻訳名『あらしのあと』)がある。

翻訳：『あらしの前』ドラ・ド・ヨング作/吉野源三郎訳 岩波少年文庫 岩波書店 2008 (旧版1951)

I-02-01
187

Hirschvogel; the Story of a Nürnberg Stove

Louise de la Ramé 作 World Syndicate 1931 53p 19cm



Louise de la Ramé (1839-1908) のペンネームはOuida、『フランダースの犬』(初版1872) の作家として日本で有名である。Ouidaは、19世紀末から20世紀初頭あたりまで英語圏の人気作家であった。本書は、1882年に初版がでた作品で、題名のHirschvogelは、実在した名陶工の名前である。オーガスト少年の貧しい家に、祖父が廃墟の普請場から掘り出してきた1532年製の大きいマジョルカ焼きのストーブがあり、少年はその見事な出来栄えに魅了されているが、父が売り払ったためストーブのなかに入っどこまでもついていく。作者は、芸術作品の時代を超えた力を描いている。
 翻訳：「ニュールンベルグのストーブ」ウィーダ著／村岡花子訳、『フランダースの犬』所収 新潮文庫 新潮社 1954

I-02-02
173

Alice's Adventures in Wonderland

Lewis Carroll 文／John Tenniel 絵 Heritage Reprints 1941 198p 24cm



「ベル・コレクション」のなかでは、珍しい美本で、Lewis Carroll (1832-98) が出版したアリスの初版本 (1865) を尊重した造本になっており、さし絵画家John Tennielのさし絵がきちんと入っている。アメリカの出版人として著名なGeorge Macy (1900-56) は、最初The Limited Editions Clubを作り、富裕層向きの1,500部限定愛蔵本を販売しており、その成功をもとに普及版を作成した。The Heritage Pressから刊行されている「本書」もその一冊である。1940年前後には、子どもをターゲットにした出版が盛んになってくるが、そのなかに「世界名作本」も含まれていたのである。なお、「ベル・コレクション」には、出版年不明の922 *Alice in Wonderland*も所蔵されている。
 翻訳：『ふしぎの国のアリス』ルイス・キャロル作／生野幸吉訳／ジョン・テニエル画 福音館書店 1971

I-02-03
262

Black Beauty

Anna Sewell 文／Fritz Eichenberg 絵 Grosset & Dunlap 1945 288p 21cm



Anna Sewell (1820-78) が、生涯でたった一作書き遺した*Black Beauty* (初版1877) は、動物が自らその生涯を語るという動物物語の先駆となり、また、英米の子どもに人気のある馬が主人公の話として、後世に大きい影響を与えている。本書は、『黒馬物語』のさし絵入り本が多数あるなかでも、馬の持つ魅力、気品や姿の美しさをよく表現しており、代表的なさし絵入り作品といえる。Fritz Eichenberg (1901-90) は、ドイツからのユダヤ系移民で、木版画家であり、ドストエフスキーやトルストイなどの文豪の作品のさし絵でも著名である。「ベル・コレクション」には、画家Florence White Williams (1895-1953) の263 *Black Beauty*, 1924と出版年など不明の261がある。
 翻訳：『^{くろうまものがたり}驪語』アンナ・シュウエル作／本田増次郎訳 内外出版協会 1903 以降多数。

I-02-04

Pinocchio

288

C. Collodi 文/Alice Carsey 絵 Whitman 1916 1v 22cm



C. Collodi (1826-90) が、イタリアの子どもの雑誌に連載し、1883年に単行本となった『ピノッキオ』は、木の人形が主人公でありながら悪童物語のあらゆる要素を持っており、荒唐無稽なプロットで、子ども読者に支持されてきた作品である。本書は、Alice Carseyによる1ページ大のカラー8葉と白黒のさし絵で賑やかな祝祭気分をかきたてる人気本である。ディズニーの影響を受けていない版として、Children's Classics (Everyman's Library, 2010) に採用されている。「ベル・コレクション」には、グラフィックデザイナーとしても著名なFritz Kredel (1900-73) のさし絵本286 *The Adventures of Pinocchio*, 1946や287 *Pinocchio*, 1925、別の作家Mongiardini-Rembadi が創作した続編289 *Pinocchio Under the Sea*, 1913もある。

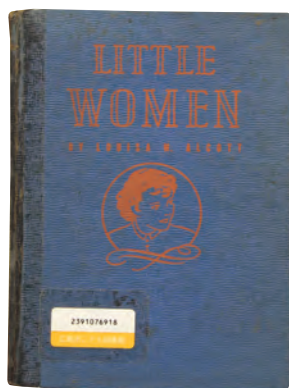
翻訳：『ピノッキオのぼうけん』カルロ・コロローディ作/安藤美紀夫訳
/白井都画 福音館書店 1970

I-02-05

Little Women

139

Louisa May Alcott 文/Juanita Bennett 絵 Whitman 1935 237p 21cm



Louisa M. Alcott (1832-88) は*Little Women* (1868) によって、怪奇的な要素や涙の場面で読者をひきつけていた少女小説を、生き活きた個性を描き分け日常のなかの機微を描くことで、普通の家族の物語でも文学になることを実現した作家である。出版直後から人気作となり、何度も映画化され、その影響もあって多くの版が刊行されてきている。本書は、30年代に広く読まれた版である。「ベル・コレクション」には、*Little Men*が2冊 (138 Erwin L. Hess 絵1940、137 Helen Osborne絵1943) と136 *Eight Cousins* (出版年不明) がある。

翻訳：明治時代の北田秋圃による初訳『小婦人』1906以後、多数の翻訳がある。訳名は「四人姉妹」もあるが、映画タイトルに使われた「若草物語」が圧倒的に多い。

I-02-06

The Adventures of Tom Sawyer

271

Mark Twain 文/Louis Slobodkin 絵 World 1946 302p 22cm



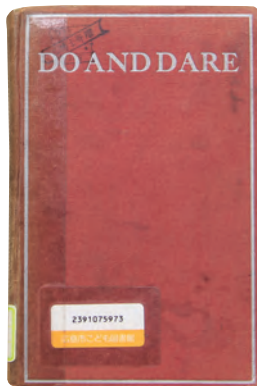
Mark Twain (1835-1910) は、言うまでもなく「アメリカ文学の父」として有名であり、なかでも『トム・ソーヤーの冒険』(初版1876) は、国民文学ともいえる「名作」であり、「悪童物語」の元祖でもある。そのため、力量ある画家がさし絵を入れた版が数多く出版されている。名作にさし絵を入れることは画家にとって経済的に安定するためにもありがたい仕事であった。*Many Moons*で1944年度コルデコット賞を受賞したLouis Slobodkin (1903-75) が描いたトム・ソーヤーでは、動きのある動作を多く描いており、トムのいる場所の空気感が伝わってくる。

翻訳：『トム・ソーヤー物語』マーク・トゥェーン著/佐々木邦訳 世界少年文学名作集第1巻 家庭読物刊行会 1919 以降、多くの翻訳があるが、さし絵は日本人画家によるものが多い。

I -02-07 **Do and Dare**

140

Horatio Alger, Jr. 作 World Syndicate (出版年不明) (初版1884) 1v 19cm



作者Horatio Alger, Jr. (1832-99) は、第一作の*Ragged Dick; or, Street Life in New York*, 1868が人気になり、後に“Ragged Dick”(「おんぼろディック」) もと呼ばれる少年が「極貧から金持ち」になる成功物語を多数残した。本書は、母がやっていた村の郵便局が郷士の企みで乗っ取られ、息子Herbertが路頭に迷う物語で、肺結核のため療養している若き資産家に出会い、数々の裏切りや危険な事態に遭いながらも最後に主人公が仏独英文学の学者になる典型的な「おんぼろディック」ものである。定式を設定して創作するアルジャーの方法は、弟子ともいえるEdward Stratemeyerによって、作品を多数制作できる作家集団の組織をつくり、「ハーディ・ボーイズ」や「ナンシー・ドリュー」シリーズなどで実行された。

I -02-08 **The New Wizard of Oz**

149

L.Frank Baum 文/Evelyn Copelman 絵 Bobbs-Merrill 1944 209p 25cm



L.Frank Baum (1856-1919) の『オズの魔法使い』(1900) は、現実の場を背景にした作品が多いアメリカ児童文学史のなかで、ファンタジー作品として著名であり、何度もミュージカルや映画になっている。初版以来オズ作品の絵を担当してきたのは、ずっとW.W. Denslow (1856-1915) であったが、Bobbs-Merrill社に著作権が移ったため、Evelyn Copelman (1919-2003) が起用されたのである。そのさし絵は、“Adapted from the famous pictures by W. W. Denslow” と標題紙に出ているが、実は1939年の映画の影響が見られる実写風の絵になっている。

翻訳：『オズの魔法使い』 フランク・ボーム作/W. W. デンズロウ絵/幾島幸子訳 岩波少年文庫 岩波書店 2003 (著作権の消滅した1956年以後、多くのさし絵画家の版がある)

I -02-09 **Lad: A Dog**

267

Albert Payson Terhune 文/Robert L.Dickey 絵 Dutton 1948 (初版1919) 371p 20cm



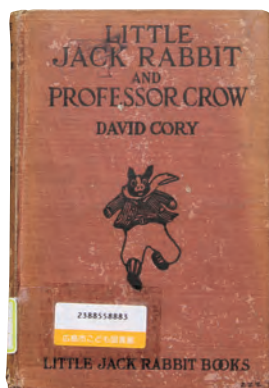
Albert Payson Terhune (1872-1942) は、作家であり、犬のブリーダーとしても著名で、実際に飼っていた純粋種のコリー犬ラッドをモデルにして描いたのが本書である。動物物語は、動物の視点から書かれたジャック・ロンドンの『荒野の呼び声』(1903) のように、飼い犬だったバックを通して文明批判につながる作品から、ラッドのように牧羊犬としての能力を保持したまま人間に忠実で勇ましく、賢く、心やさしい「名犬」ものまで幅広い。本書は、雑誌掲載されたものをあつめた短編連作全16章で構成されている。各章を読み進むにつれて事実に基づいて語られたエピソードが重なりあって魅力あるキャラクターの肉付けがなされ、リアリティーのあるラッド像が形成されていく。

翻訳：『名犬ラッド』A. P. ターヒューン作/ロバート・ディッキー絵/岩田欣三訳 岩波少年文庫 岩波書店 改版1970

I-03-01 **Little Jack Rabbit and Professor Crow**

180

David Cory 文/H.S.Barbour 絵 Grosset & Dunlap 1922 128p 20cm



David Cory (1872-1966) は、“Little Jack Rabbit Books” 14巻の作者で、動物を主人公にして他のいろいろな動物と出会いさまざまな冒険をするシリーズものを「開発」した1920年代の人気作家である。本書は、第7巻で歌いながら春が来るのを探しに森へでかけるLittle Jack Rabbitが、まず、森の賢者老Professor Jim Crowに出会うところから話が始まる。H. S. Barbourのへたうま絵もあって小鳥やビーバー、クマと次々に出会う明るく楽しい幼年向き童話になっている。「ベル・コレクション」には12巻目の179 *Little Jack Rabbit and Miss Mousie*, 1925がある。また、勉強に疲れた女の子が、眼の前にある「ノアの箱舟」の絵本から出てきた船長に誘われて船に乗り航海する178 *The Cruise of the Noah's Ark*, 1922がある。

I-03-02 **Raggedy Andy Stories**

205

Johnny Gruelle 文・絵 M. A. Donohue 1920 1v 23cm



Johnny Gruelle (1880-1938) は、まず、母親の古い手作りの布でできた抱き人形をもとにしたRaggedy Annという人形を商標登録した上で売り出し、そのあと、*Raggedy Ann Stories*, 1918を出版した。人形との抱き合わせ商法である。本書は、その続編で、作者に見知らぬ人から手紙がきて、その人は隣に住んでいた家族でおばあさんから受け継いだAndyを送ってきたという前書きから物語が始まる。数ある人形物語のなかで、Raggedy Ann人形そのものの人気が先行し、キャラクターになり、作者の死後も人形が作り続けられ、作品も書かれている珍しいケースである。「ベル・コレクション」には、Annシリーズ20巻目の206 *Raggedy Ann in the Magic Book*, 1939 (息子のさし絵) と682「しかけ絵本」がある。

I-03-03 **Uncle Wiggily's Adventures**

199

Howard R. Garis 作/Elmer Rache 絵 Platt & Munk 1940 184p 20cm



Howard R. Garis (1873-1962) は、驚くほどの多くのシリーズに多くの作品を残している。本書は、リウマチで足が不自由な老ウサギUncle WiggilyがDr. Possumに痛みを訴え、旅が効くといわれ旅立つ話である。シリーズの始まりは1910年、新聞掲載から本になり、Bedtime Booksの常連になって5社から79冊刊行された。同時期の927 *Uncle Wiggily's Airship*, 1939は、話題の飛行船が取り上げられており、Elmer Rache絵による最後期シリーズ作品である。1931年刊の701 *Uncle Wiggily and the Pirates*, 702 *Uncle Wiggily Goes Camping*, 703 *Uncle Wiggily on Roller Skates*は最盛期の作で、シリーズ3人目のLang Campbell (1882-1937)の絵が大人気であった。「ベル・コレクション」には“Teddy” 3冊、“Curlytops” 1冊のシリーズ本もある。

I-03-04
272

365 Bedtime Stories

Janet Robson 絵 Whitman 1944 380p 26cm

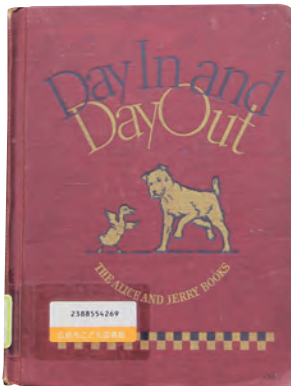


Ruth O. Dyer 著 190 *The Day Time Story-Book ; For Mother and Child*, 1917は、母親が子どもに語ることを想定した起床から就寝までの短編童話集であるものの母親教育を兼ねる内容になっていた。しかし、本書になると365日1日につき、1ページずつ毎晩子どもに読めるように編集した実践の書になっており、祝日や行事などの話をうまく取り入れている。「ベル・コレクション」には、表紙絵の異なる2冊がある。Janet Robsonが口絵に描いた母親がベッドで二人の子どもに本を読む場面がアメリカの家庭で繰り返されていた。また、同じWhitman社から刊行された122 *Big Big Story Book*, 1938は、「黒馬物語」「ハイジ」「グリム」「ピーターパン」「ハンス・ブリンカー」の再話で読める大部な書で、一定の読者層を狙った本作りがなされていたのがわかる。

I-03-05
884

Day In and Day Out

Mabel O'Donnell 文/Alice Carey文/Florence Hoopes(ほか) Row Peterson and Company 1936 156p 21cm ☆



本書は、アメリカの読書指導の研究の成果を踏まえて編集され、60年代まで長期に渡って使われた国語読本で、6年生まである“The Alice and Jerry Basic Reading Program”の就学前教育用の1作である。身近にある材料を使って単純な繰り返しの多い文章による短編集であるが、後に、女の子と男の子のコンビによる類書が多く出されている(Dick & Janeなど)。作者Mabel O'Donnell (1890-1985)は、教師体験があり、全学年で21作になるシリーズを書きあげている。「ベル・コレクション」には、1966年版が所蔵されており、装丁、さし絵、話の順番は変更されているが基本は変わっていない。

I-03-06
169

Old Mother West Wind

Thornton W. Burgess 文/George Kerr 絵 Grosset & Dunlap 1910 169p 18cm



Thornton W. Burgess (1874-1965)の動物を主人公にした短編童話を16編収めたのが、本書で、バージェスの第1作である。ここには、Jimmy Skunk, Peter Rabbit, Sammy Jay, Little Joe Otter, Grandfather Frogといった、後の作品にも活躍するキャラクターがほとんど揃っている。野外で過ごすことが多かった著者が興味を持って観察した動物がそれぞれの生態を活かして擬人化されており、幼児から楽しめる動物物語として評価された。日本ではバージェスの原作をもとにしたテレビ・アニメ「山ねずみのロッキーチャック」が1973年に放映されている。「ベル・コレクション」には、ほかに、168 *Old Granny Fox*, 1920と167 *Little Joe Otter*, 1925がある。

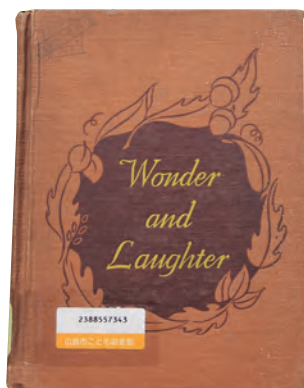
翻訳：バージェス・アニマル・ブックスシリーズ全20巻 金の星社 1969
-72 (短編一編ずつを一冊の単行本にして出版)

I-04-01

Wonder and Laughter

151

Elizabeth H. Bennett 編 / Mabel B. Dowse 編 / Mary D. Edmonds 編 / Marguerite Klinke Scott 画 Silver Burdett 1947 352p 21cm



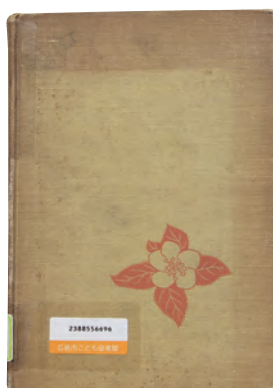
本書は、Elizabeth H. Bennett, Mabel B. Dowse, Mary D. Edmondsの編集による“Stories to Remember”全3巻の第1巻目の文学選集である。“If Animals Could Talk, Call It Courage, Wise and Foolish Ones, There's Magic in the Air, Happily Ever After”の5部構成を取っている。第1部では、Kurt Wieseのカンガルーの子どもが危険な目に遭いながら育っていく“Karoo, the Kangaroo; Whose Home Is in Australia”から始まっている。教育的な話のあとには、Edward Learのナンセンス詩“The Duck and the Kangaroo”が配置されて、そのあと各国の民話6編、イソップ寓話があって、詩、ロフティングのドリトル先生（抜粋）という動物物語づくしになっている。中学年前後の読者を想定している。

I-04-02

Miss Hickory

146

Carolyn Sherwin Bailey 作 / Ruth Gannett 画 Viking Press 1947 (初版1946) 123p 23cm



Carolyn Sherwin Bailey (1875-1961) は、知識の本や歌やゲームの本、お話の選集などを制作しており、教育雑誌の編集者としても定評があった。作家としては、特に60歳を過ぎたころから個性が際立った作品を残すようになった。本書は、体がリングゴの枝、頭がヒッコリーの人形ミス・ヒッコリーが主人公であるが、作者は、「はしがき」で登場人物はすべて実在していると断っているように、しっかりもので地道な暮らしを大切にしている女性として描いており、厳しい環境のなか、カラスやネコ、シマリスと交流しながらサバイバルしていく物語である。Ruth Gannettのさし絵も独創的で美しい。1947年度ニューベリー賞受賞作。同じ著者の145 *Country-Stop*, 1942がある。

翻訳：『くるみさん』C. S. ベイリー作 / ルース・ギャネット絵 / 梶木隆一訳
トッパン 1950、『ミス・ヒッコリーと森のなかまたち』キャロライン・S・ベイリー作 / ルース・ガネット画 / 坪井郁美訳 ほるぷ出版 1985

I-04-03

A Tree for Peter

260

Kate Seredy 文・絵 Viking Press 1946 (初版1941) 102p 25cm



Kate Seredy (1899-1975) は、第1作*The Good Master*, 1935から高い評価を得、3作目の*The White Stag* (翻訳名『白いシカ』瀬田貞二訳) が1937年度のニューベリー賞受賞、その後もニューベリー賞やコルデコット賞の候補作になる作品を次々と生み出した作家兼画家である。本書は、貧民街に住む足の不自由なピーターがホームレスのKing Peterと出会い、シャベルと木の苗をもらって汚れた街を変えていく物語である。ハンディを背負って育つ子どもへのメッセージ性の高い作品に、アンデルセン童話が感傷的であると批判された時期でもあり、キリスト像と重なるKing Peterの解釈も含めて論議を呼び、評価がわかれた。作者によるさし絵が入っている。

I-04-04 **The Arrival of Jimpson**

147

Ralph Henry Barbour 作 D.Appleton 1904 253p 20cm

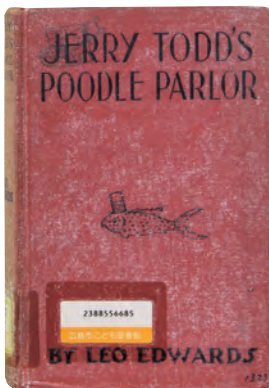


Ralph Henry Barbour (1870-1944) は、少年向きのスポーツ物語を確立させた作家で、1年に数冊ずつ刊行され、多くの作品を残した人気作家であった。本書は、副題に“For Boys about Boys”とあり初期の短編集である。タイトルはその第一話からきている。雨の降る憂鬱なグラウンド風景から入って、怪我をした選手の補充でやってきた無名のJimpsonが肉体の限界まで頑張る物語であるが、ハイライトはライバルであるハーバード大学とイエール大学のフットボール試合の実況放送のような場面であり、フットボール少年の憧れをかき立てた。「ベル・コレクション」には、Noel Sainsbury, Jrの人気シリーズ“Champion Sport Stories”の1冊、フットボールを扱った259 *Gridiron Grit*, 1934がある。

I-04-05 **Jerry Todd's Poodle Parlor**

191

Leo Edwards 文/Myrtle Sheldon 絵 Grosset & Dunlap 1938 203p 20cm

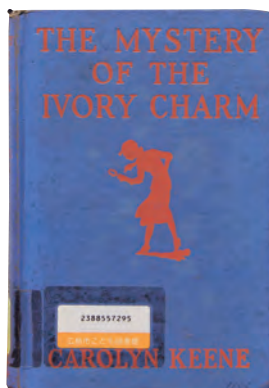


Leo Edwards (1884-1944) は、1920～30年代の人気作家で、5つのシリーズを残している。中でも一番人気は“Jerry Todd”シリーズであった。本書は、第13巻までの人気のBert Salgのさし絵ではなく、Myrtle Sheldon絵による16作品の第15番目にあたる。作家の故郷の町での子ども時代の友人がモデルになっており、生き活きた少年たちが登場している。こうした作品群の成立には、大衆的な少年ものの作家James Otis Kaler (1848-1912) の存在が大きい。“Boy's Spies”や“Navy Boys”のシリーズである。「ベル・コレクション」にある935 *Toby Tyler; or Ten Weeks with a Circus*, 1937 (初版1880) には複本が3冊もあり、背景にはサーカス人気があった。(1960年、ディズニー映画になっている)

I-04-06 **The Mystery of the Ivory Charm**

223

Carolyn Keene 作 Grosset & Dunlap 1936 216p 20cm



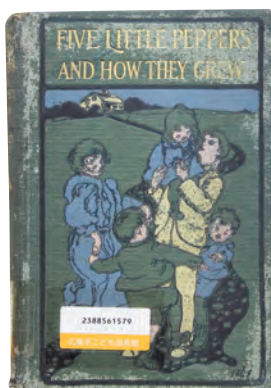
少女探偵ナンシー・ドリューを描いた作家Carolyn Keeneは、特定の作家ではなく、The Stratemeyer Syndicateという作家集団が使っているペン・ネームで、人気がありシリーズは同じ名前が続刊(170巻以上)されている。本書は、第13作目で、ナンシーが友人と遅れた汽車を待っているところへ、貸し切りのサーカス列車が着いてゾウとゾウ使いの少年が降りてくるところから物語が始まる。ナンシーの正義感、推理力、行動力を備えた新鮮な少女像は、多くの少女読者を獲得していった。ほかに第15作目の222 *The Haunted Bridge*, 1937と同時期に人気を分け合ったFrances K. Joddの“Kay Tracey Mystery”第7巻221 *The Secret at the Windmill*, 1937がある。

翻訳：『白い顔 黒い手』キーン作/中山正美画/野長瀬正夫訳 少女・世界推理名作選集27 金の星社 1965

I-05-01 **Five Little Peppers and How They Grew**

264

Margaret Sidney 文/Hermann Heyer 絵 Lothrop 1904 (初版1881) 427p 20cm



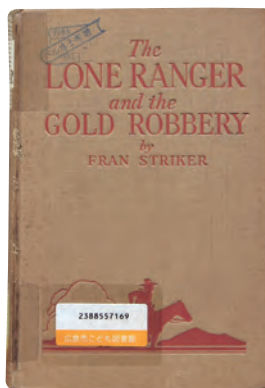
Margaret Sidney (1844-1924) は、母親のもとで貧乏ななかでも明るく暮らす5人きょうだいの成長を綴った“Five Little Peppers”シリーズの作家である。本書の第1巻が好評で次々に読者の求めに応じて書きつなぎ、末っ子が成人するまで12巻(1916)を描いた。未亡人の母Mamsieは働きづめ、しっかり者で頼りになる長男Ben、明るく働き者の長女Polly、スポーツ好きで時に問題も起こす次男Joel、もの静かで兄姉の役に立とうとする三男Davie、家族中のペットのような末っ子Phronsie 3歳が織りなす前向きな一家の物語は、高度成長時代のアメリカの家族のモデルのように見える。1939年と40年に原作を大幅に脚色して映画化され、Peppers一家はより有名になった。

翻訳：『片目のパン人形：ペパーきょうだい物語』マーガレット・シドニー著／吉田正、阿部民弥訳／太田大八絵 河出書房 1953

I-05-02 **The Lone Ranger and the Gold Robbery**

265

Fran Striker 文/Paul Laune 絵 Grosset & Dunlap 1939 185p 20cm



「ローン・レンジャー」といえば、日本では1958年から1962年にかけて放映されたテレビの西部劇ドラマである。実は、「ローン・レンジャー」は、ラジオ・ドラマから始まっており、マンガになり、劇場映画は4作、テレビ版は全221話もあるという興味深い歴史がある。作者Fran Striker (1903-62) の作品が最初にラジオで流れたのが1932年で、以後1年に156話の脚本を作ったと言われている。それが最初に本になったのは1936年、1956年までに16巻刊行されており、本書はその中の第3作目にあたる。白馬シルバーにまたがるレンジャーと相棒インディアンの若者トントの姿は、公民権運動の盛んになったアメリカで論議的にもなった。

I-05-03 **Shirley Temple Storybook**

250

Dean O'Day 編/Corinne Bailey 絵/Bill Bailey 絵 Saalfield Publishing Company 1935 106p 23cm



Shirley Temple (1928-2014) という人気スターの名前を知らない人は殆どいないだろう。子役として1932年にはじめて映画に出演、翌年の“Little Miss Maker” (日本語名「可愛いマーカちゃん」) でブレイクし一躍人気者になった。その証の一つが「本書」である。明るく健気で唄やダンスに秀でた「テンプルちゃん」は、子ども用のグッズの冠として安心な名前であった。Dean O'Day編著で、自身も含め口調のよい童話が集められている。後年、母親になったスターは、テレビの子供番組“Shirley Temple Storybook”の司会をつとめ高視聴率を稼いだという。「ベル・コレクション」には、詩を集めた134 *Shirley Temple's Favorite Poems*, 1936もある。

I-06-01
208

Told by Uncle Remus

Joel Chandler Harris 文/A.B.Frost(ほか)絵 Grosset & Dunlap 1905 (初版1903) 295p 20cm



著者Joel Chandler Harris (1848-1908) は、アメリカ南部のジョージア州の生まれで子ども時代に農園で働く黒人たちの物語を耳にしており、民話学者がするような聞き書きではなく、話の語り手を設定した農園主の子どもを相手に民話や歌を聞かせるという形で、*Uncle Remus: His Songs and His Sayings; The Folk-Lore of Old Plantation* (初版1880) を出版した。Br'er Rabbit (Brother Rabbit) が智慧を働かせてBr'er Foxを出し抜く痛快な話をはじめとする弱者の側にたった物語は、方言をうまく取り入れた語りの面白さもあって評判となった。本書は、16話の入った普及版である。

翻訳：『ウサギどんキツネどん』J. C. ハリス作/A. B. フロースト絵/八波直則訳 岩波少年文庫 岩波書店 1953、『リーマスじいやの物語——アメリカ黒人民話集』J. C.ハリス〔編〕/河田智雄訳 講談社文庫 講談社 1983

I-06-02
952

The Runaway Soldier

Fruma Gottschalk 再話/Simon Lissim 絵 Alfred A. Knopf 1946 161p 21cm ☆



Fruma Gottschalk (1901-95) は、ロシア文学の翻訳者でもあるが、ロシアで子ども時代に聞いた話をもとにして再話した16話を集めたのが「本書」で、素朴な民話ではなくアメリカの子どもを意識したわかりやすい物語になっている。舞台芸術で著名なSimon Lissim (1900-91) がさし絵を担当しており、ロシアの特徴ある図柄を駆使して、ユーモアのある楽しい作品に仕上がっている。なお、本書は“Tales of Other Lands”シリーズの一冊で、ほかに、メキシコやチャネル諸島、北欧などの民話集がある。「ベル・コレクション」には、もう1冊ロシアの487 *The Twenty-Four Ivans*, 1946 があり、当時、子ども向けに再話したストーリーテリングにも向く民話集が数多く刊行されていた。

I-06-03
230

The Red Fairy Book

Andrew Lang 編/H.J.Ford 絵/Lancelot Speed 絵 Longmans Green 1929 (初版1890) 436p 21cm



Andrew Lang (1844-1912) は、イギリスの神話学者で、収集した世界中の物語のなかから選んで再話し、美しい本にして1889年、*The Brue Fairy Book* を出版した。それが評判となり、20年がかりで十二色の童話集に仕上げたが、現在でも多くの国で、お話の宝庫として愛読されている。一冊ずつ装丁を凝らし、物語の雰囲気をもよく伝えるH. J. Ford (1860-1940) のさし絵もその人気に一役かっている。本書は、最初の巻の続編で、お姫さまの物語が多く含まれており、好評で迎えられて、第3巻へと繋がっていった。「ベル・コレクション」には、232 *The Yellow Fairy Book*, 1929 (初版1894) と231 *The Violet Fairy Book*, 1944 (初版1901) が所蔵されている。

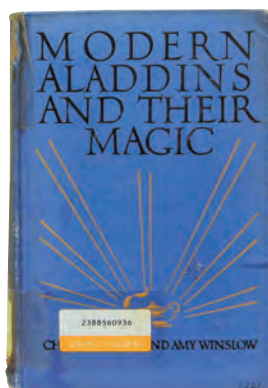
翻訳：『あかいろの童話集』アンドルー・ラング編/H・J・フォードL・スピード装画・挿絵/生方頼子ほか訳/西村醇子監修 アンドルー・ラング世界童話集第2巻 東京創元社 2008

I-07-01

Modern Aladdins and Their Magic; The Science of Things about Us

50

Charles E. Rush 文 / Amy Winslow 文 Little, Brown 1926 318p 20cm



「本書」は、学校や家のなかにある身近なものや現象をひとつずつ取り上げて、4、5ページの読み物にして科学へ興味を向けようと意図して書かれた入門書である。実は、本書は1926年のクリスマスに母親から子どもに贈ったことが、扉に書かれた「献辞」から判明している。「献辞」はEmillie Poulssonの*Rhyme Time for Children*, 1929が初出である。読書指導キャンペーンや本好きの人の蔵書票によく使われていた四行詩の名句を、母親は子どもに本を友だちにして育ててほしいという願いを込めて記したのであろう。

Books are keys to wisdom's treasure; Books are gates to lands of pleasure;

Books are paths that upward lead; Books are friends, Come, let us read. —Mother—

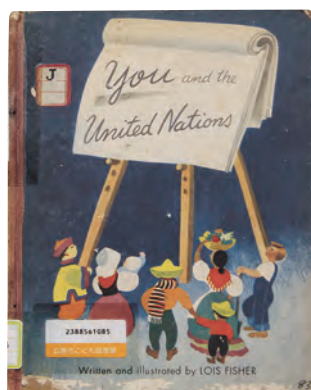
「本は知恵の蔵をあける鍵、本は楽しさの国への入り口、本は向上に導く道、本は友だち、さあ、読みましょう」—母より—

I-07-02

You and the United Nations

321

Lois Fisher 文・絵 Childrens Press 1947 1v 25cm



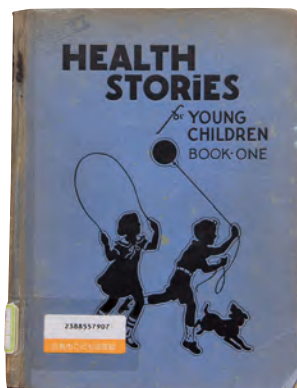
本書は、Lois Fisherが文も絵も手掛けており、国連という組織の重要性を手軽に、しかし本質を損なわずに理解することができる小・中学生向けの絵本である。マンガを使って大人を登場させているのがいわゆる「お子さま向け」ではない本として有効に働いている。頻繁に描かれている地球儀も、視覚イメージとして世界の多様性、複雑性を巧みに表現している。異なった歴史と経済事情を持つ13州が議会で話し合いながらアメリカ合衆国を育ててきたように、苦労はあっても国連総会の場を“the town meeting of the world”にして話し合っていこうという結末には、第二次世界大戦直後のアメリカ市民の理想が読み取れる。

I-07-03

Health Stories Book One

72

Anna B. Towse 作 / William S. Gray 作 Reilly & Lee 1933 144p 22cm



1930年代から、読書指導の専門家として活躍したWilliam S. Gray (1885-1960) が、子どもの保健衛生の専門家と組んで作成した小学校低学年向けの「保健衛生を学ぶ物語集」である。「清潔」「強く丈夫に成長」「危険から身を守る」など5部にわけて27話が入っている。例えば、砂遊びに熱中して汚れたままパーティーに出かけようとするピーターが反省してお風呂で体を洗い、着替えをしてでかける話では、どこにでもいるような子どもを主人公にして、ひとつ、ひとつ、丁寧にでかけるまでのステップを踏んで進めていく。そのプロセスが、子ども自身が納得いくように描写されていて、受け入れやすく作られている。アメリカの学校教育の副読本として使われた。

I-07-04
73

What Time Is It?; The Story of Clocks

M.Ilin 文/Beatrice Kincead 英訳/N.Lapshin 絵 Junior Literary Guild 1932 132p 20cm



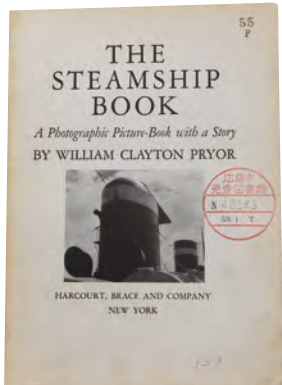
著者ミハイル・イリーン (1896-1953) のロシア語によるノン・フィクションは、日本でも「イリン選集」全10巻 (岩崎書店, 1949-52) や『人間の歴史』1~3 (岩波少年文庫改版, 1986) などが刊行されており、「子ども向けの科学書」の先駆として高い評価を得ている。『いま、何時ですか』(原著1927) は、初期作品で、「時計がなかったらどうなるだろう」から始まって、時計にまつわる歴史や逸話、振り子や天体時計など、短い話が34編入っており、興味を引き出しながら、時計の本質に迫っている。

翻訳:『時計の歴史』玉城肇訳 扶桑閣 1937 (同訳 科学入門名著全集 第5巻 国土社 1991)、『灯火・時計・書物の歴史』吉原武安訳 岩崎書店 1966など。

I-07-05
74

The Steamship Book

William Clayton Pryor 作 Harcourt, Brace 1934 121p 22cm



副題に“A Photographic Picture-Book with a Story”とあるように、兄と姉とともに汽船でパナマにいる父に会いに行くローラの旅を、ニューヨーク港を出るところから、左ページに文、右ページに写真で、追っていくドキュメンタリー風の作品である。デッキから見える湾内で仕事をするタグボートやニューヨークの摩天楼、厨房の皿洗い機や中国人のコックさん、無線室などの船内の様子などが具体的で楽しめる。同じシリーズに、『汽車の本』(1933)、『消防車の本』(1934)、『飛行機の本』(1935)、『飛行船の本』(1936)があり、『鋼鉄の本』、『紙の本』、『木綿の本』と続いた。1930年代に新たに開拓された写真によるノン・フィクションの人気シリーズである。

I-07-06
76

The Make-It Book

Rachel Taft Dixon 作/Marjorie Hartwell 作 Rand McNally 1928 57p 26cm



副題に“Things to Do with Scissors and Paste and Odds and Ends”とあるように、ハサミと糊だけを使って余り物の紙や箱、木の実などで工作をすすめる実用本である。折り紙にはじまって着せ替え人形、仮面や凧、人形の家など、具体的ですぐやりたくなるような本に仕上がっている。翌年、針と糸を使う*The Sew-It Book; Things to Make with Needles and Thread and Odds and Ends*が刊行されている。どちらも、絵が丁寧で美しい。特に、Rachel Taft Dixon (1889-1988) は、*Prayers for Children* (“A Little Golden Book” 1942) のキュートな子どもの絵や「紙の着せ替え人形」の作者として人気があり、その作品は何度も複製出版されている。

II-01-01 **The Night Before Christmas**

185

J. Watson Davis 絵 A.L. Burt Company 1905 123p 22cm



本書は、絵本ではなく、クリスマスプレゼント用に編集された物語集である。巻頭にクリスマスの前の晩アメリカの家庭で読まれることで知られている詩 ‘Twas the Night Before Christmas’（別名 ‘Visit from St. Nicholas’）が入っている。この詩は、現在、世界に広まっているサンタクロースの姿やトナカイのそり、背中に大きい袋を背負って煙突から入る、靴下に贈り物を入れていくなどのものとなったものである。J. Watson Davis (1870-1959) は、主に宗教画の画家であったが、さし絵本も残しており、本書によって、赤い服を着たサンタクロース像が1905年までには出来上がっていたことがわかる。

II-01-02 **Little Elephant's Christmas**

276

Heluiz Washburne 文/Jean McConnell 絵 Albert Whitman 1938 32p 24cm



Heluiz Washburne文 と Jean McConnell絵の “Little Elephant” は、1937年に *Little Elephant Catches Cold* が評判になり、その翌年「本書」が出版されている。物語は、クリスマスの贈り物が次々と届く場面から始まる。鼻で贈り物の箱を運ぶ子象の弾む気持ちがりズムよく “There were long bundles, short bundles, flat bundles, round bundles, thin bundles, square bundles, —bundles, bundles, bundles!” と表現されており、絵では、その形の箱を確認できるようになっている。伝統的なクリスマスの準備までの日々をユーモラスに描いており、母と父と祖父のキャラクター作りの巧みさもあって、象の家庭ならではの情景が楽しめる「クリスマス絵本」である。

II-01-03 **Snow Before Christmas**

471

Tasha Tudor 作 Oxford University Press 1941 1v 17cm



クリスマスがくるのを待つ日々を、子どもの視点から、アメリカの昔風の田舎家を中心に、村の風景、家のまわり、台所、人びとの準備の様子、遊びなどで描いている。繊細で隅々まで丁寧に描かれた美しい絵本である。著者ターシャ・テューダー (1915-2008) は、1972年になって、本書で描かれた開拓時代を理想とするような生活を実現しようと、バーモントに移り、近代的な設備を最小限にした家を見て、スロー・ライフを実現すべく庭づくりと手作りを基本においた暮らしを実現している。二十代の若さで描いた穏やかな世界は、利便性と合理性を優先させる社会への警鐘であった。

翻訳：『もうすぐゆきのクリスマス』ターシャ・テューダー著／ないとうえりこやく ターシャ・テューダー・クラシックコレクションメディアファクトリー 2001

II-02-01 **Babette**
416

Clare Turlay Newberry 文・絵 Harper & Brothers 1937 30p 24cm

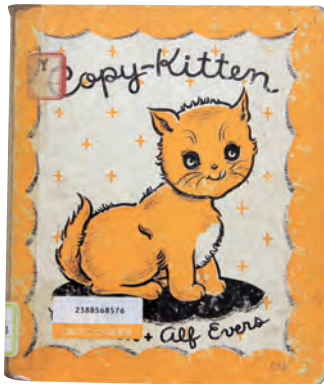


Clare Turlay Newberry (1903-70) は、ネコの画家として著名で、全17冊の絵本の内13冊のネコ絵本を刊行している。絵本第1作は *Mittens* (1936)、6歳の男の子がいなくなったネコのポスターを貼って探す物語で、アメリカグラフィックアート協会が毎年選ぶ美本「50選」になった。その翌年出た *Babette* は、8歳の女の子 Chatty が学校の休みの日に母親が仕事に出かけさびしく過ごしているところにやってきた子ネコの物語である。名前の決め方やミルクのやり方など、ひとつひとつを語る繊細な文と *Babette* という固有の名前を持つ小さいネコの存在を伝える絵がうまくみ合っている。ネコをことさら可愛くデザインした絵ではなく、個性あるネコそのものを描くのがニューベリーのネコ画といえる。

翻訳：『クリスマスのこねこ』クレア・ターレイ・ニューベリー文・絵／光吉夏弥訳 大日本図書 1988

II-02-02 **Copy-Kitten**
513

Helen Evers 作／Alf Evers 作 Rand McNally 1937 1v 20cm



Helen Evers 文、Alf Evers 絵による夫妻のコンビが制作した “Sweet Small Books” は、30年代の半ばから40年代にかけて多数出版されており「ベル・コレクション」に数多く所蔵されている。なかでもネコ絵本 *Copy-Kitten* は人気が高く *532 More about Copy-Kitten*, 1940 *509 All about Copy-Kitten*, 1943 の続編が出ている。読者にアピールする秘密は、表紙絵にあると思われる。明るいい色で大きく描かれた主人公が読者の方をみつめており、思わず手を出すのである。夫妻が意識的に使ったこの手法は、特に幼い子どもの絵本で多用されていくことになる。ネコの他に、イヌの *519 Frankie*, 1939、ウサギの *522 Fussbunny*, 1944、ブタの *540 The Plump Pig*, 1939 もコンセプトは同じである。

II-02-03 **Gabriel Churchkitten**
336

Margot Austin 文・絵 E. P. Dutton 1942 1v 26cm

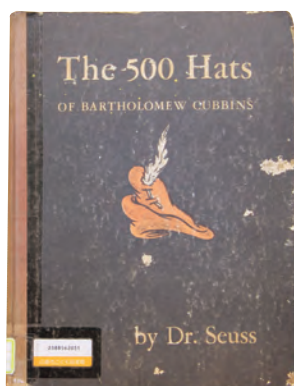


Margot Austin (1907-90) は、主に4、50年代に活躍したさし絵画家で、文も絵も担当した本書で記憶される。前年に刊行された教会ネズミを主人公とした *339 Peter Churchmouse*, 1945 (36刷) が人気を博し（「ベル・コレクション」では複本6冊所蔵）、その続編として、同じ教会のネコのガブリエルを刊行したところ1944年 Famous Studios がアニメ化し、パラマウント社から放映された。夢遊病の Parson Pease-Porridge（豆がゆ牧師、マザーグースから採られた名前）対策を練る本来なら宿敵のピーター、ガブリエル、トランペット（イヌ）の三者の愉快でリズムのある会話が楽しく、さし絵は繊細で毛並みの表現にすぐれ、場面、場面が印象に残る。

II-03-01 **The 500 Hats of Bartholomew Cubbins**

977

Dr. Seuss 作 Vanguard Press 1938 1v 31cm ☆



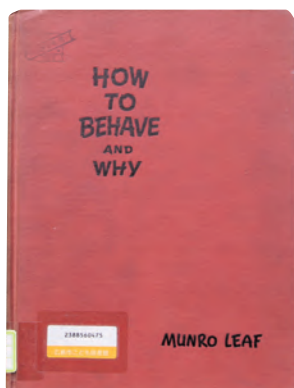
第1作の『マルベリーどおりのふしぎなできごと』1937は、多くの出版社から断られて、やっと出版されたが、第2作の本書は、同年に出ており、墨一色の画面に赤い帽子が躍動する奇妙で不思議な物語は、すぐに子ども読者を魅了した。しかし大人にはよく理解できなかったようだ。帽子をとるように王さまに命じられたパーソロミューは、帽子をとるが、取った瞬間に同じ大きさの帽子がのっけていて、とつても、とつても帽子は増えるばかり・・・「ほら話」であるが最後をうまくおさめている。後年、*The Cat in the Hat* (1957) のような韻を踏んだリズムのある言葉遊びに独自の絵本世界を拓くことになる。

翻訳：『ふしぎな500のぼうし』ドクター・スースさく・え／わたなべしげおやく ドクター・スースの絵本 偕成社 2009（ほかに、渡辺茂男訳 日本パブリッシング 1969）

II-03-02 **How to Behave and Why**

437

Munro Leaf 作 J. B. Lippincott 1946 55p 26cm



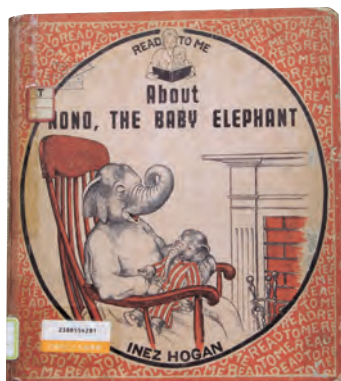
681『はなのすきなうし』（1936）の作者としても著名なマンロー・リーフは、おもしろい「道徳書」を書く名手でもある。単純化したマンガ風の人物キャラクターを文字も含めてデザインし赤と黒の二色で構成したページに自在に配置して、楽しく生きるコツを考えていく。「正直、公平、強い、賢い」という4つのキーワードを設定して問題提起しながら、読者に「なぜ？」という問いかけをするので、絵本に入り込んで対話でき、頭の整理ができる。こうした生き方にかかわるまじめな話ができる絵本には、良き市民、隣人、友だちになることを求める社会が背後にある。同じような路線の234 *John Henry Davis*, 1940(未訳)が「ベル・コレクション」に入っているが、成功作とは言いがたい。

翻訳：『おぎょうぎ どうする なーぜ』マンロー・リーフさく／わたなべしげおやく フェリシモ 2004

II-03-03 **About Nono, the Baby Elephant**

334

Inez Hogan 文・絵 E. P. Dutton 1947 44p 26cm



Inez Hogan (1895-1973) は、人気のある動物絵本作家であった。本書のゾウの赤ん坊Nonoの表情やしぐさには、思わず引き込まれるユーモアと可愛さがある。キリンとともに、ゾウもよく描かれたが、本書ほどゾウがうまく描けている絵本はあまり見られない。表紙絵の上部に“Read to Me”というシリーズ名が出ているが大人が抵抗なく読んであげることができる絵本である。同じ著者の作品338 *Nicodemus and Petunia*, 1937、423 *Epaminondas and His Auntie*, 1938が「ベル・コレクション」に入っているが、当時、人気キャラクターであったNicodemusやEpaminondasは、黒人の子どもをおもしろおかしい対象としてのみ描いているので、現在では、全く評価されていない。

II-04-01
424

The Restless Robin

Marjorie Flack 作 Houghton Mifflin 1937 1v 18cm

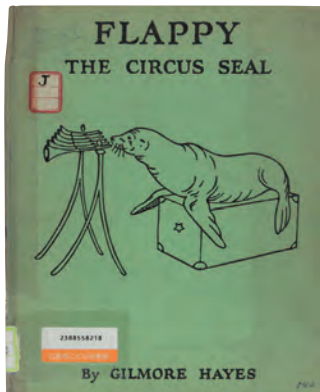


Marjorie Flack (1897-1958) は、日本では『おかあさんだいすき』（光吉夏弥訳、岩波子どもの本5、1954）やスコッチテリアの子犬・アンガスのシリーズ（瀬田貞二訳、福音館書店、1974）などで著名である。本書は、アメリカ・コマドリ（コマツグミ）の生態を物語絵本にした博物学的な絵本として、フラックの生態に基づく動物たちの魅力がどのように培われたかを知る好著である。2月、桃の木に止まっているMr. Robinが南のジョージア州を飛び立って休むことなく北上し、ワシントンを経てニューヨークを超え、ニューハンプシャー州に辿りつくまでの1か月以上に及ぶ壮大な旅を描いている。

II-04-02
492

Flappy; the Circus Seal

Gilmore Hayes 作/Lloyd J. Dotterer 絵 Platt & Munk 1942 1v 24cm



20世紀前半のアメリカでは、巡回サーカス団が町にやってくるのが子どもの楽しみだった。本書の主人公アザラシのFlappyは、ボールを鼻で操るだけでなく、ラッパでアメリカ国歌・星条旗を演奏することができ、観客が立ち上がって斉唱するというサーカスの人気者であった。しかし、調教師が年をとったので動物園にやろうと相談しているのを聞く。その夜の出番で、まだ活躍できると全力を出しすぎ疲れる。老いを認めて動物園に行き、仲間もでき、そこで楽しく暮らす。Flappyの気持ちがよくわかる絵が巧みで、観客の子どもやサーカスの人々との交流もきちんと描かれている。「ベル・コレクション」には、393 *Oscar, the Trained Seal* や429 *The Circus Book* など、サーカスの作品が多く見られる。

II-04-03
425

The Chicken Book

Garth Williams 絵 Howell, Soskin, Publishers 1946 1v 21cm



Garth Williams (1912-96) は、絵本『しろいうさぎとくろいうさぎ』（松岡享子訳、福音館書店、1965）や『スチュアートの大ぼうけん』（E.B.ホワイト作/さくまゆみこ訳、あすなろ書房、2000）や『大きな森の小さな家』（ローラ・インガルス・ワイルダー作/恩地三保子訳 福音館書店 1972）などのさし絵で著名である。本書は、孵ったばかりの5羽のひよこが育っていくさまを横長の形を活かした低いアングルで描いている場面が効果的に使われており、水彩画で描かれた原画を活かせる印刷技術の進歩もあって、表現の巧みさが際立っている。ウィリアムズは、ひよこやうさぎやくまのふわふわした毛並みを描く名手で、幼い読者が触りたくなる温かい絵に特徴がある。

II-04-04 **The Elephant's Child**

351

Rudyard Kipling 作/F.Rojankovsky 絵 Garden City Publishing Company 1942 1v 24cm



本書は、ラドヤード・キプリングの*Just So Stories* (1902、翻訳：藤松玲子訳『ゾウの鼻が長いわけ』岩波少年文庫、2014など)の最初の第1話を1冊の絵本にした作品で Feodor Rojankovsky (1891-1970)の動物画を楽しむ版になっている。リズムのある語り口でどんどん進んでいく物語の面白さが絵でも伝わるのである。「ベル・コレクション」には、続編の3作(353 2. *How the Camel Got His Hump*、356 3. *How the Rhinoceros Got His Skin*、354 4. *How the Leopard Got His Spots*)と、動物の生態を細部にわたるまで描いた、リダ・フォシェ文の『りすのパナシ』や『うさぎのフルー』などが翻訳で知られているシリーズの未訳の英語版417 *Cuckoo*, 1942が所蔵されている。

II-04-05 **Mr. Red Squirrel**

679

Tom Robinson 作/Kurt Wiese 作 Viking Press 1943 1v 26cm



Kurt Wiese (1887-1974)は、1933年度のニューベリー賞受賞作品*Young Fu of the Upper Yangtze*のさし絵を担当して以来、滞在経験のある中国を舞台にした物語にさし絵をつける仕事が多くなっていった。しかし、ウィーゼには動物画を描く巧みさもあり、現在も版を重ねている Walter R. Brooks 作 “The Freddy the Pig” シリーズがユーモア児童文学の先駆となったのには、さし絵の魅力的なブタのキャラクターの功績が大きい。本書は、Thomas P. Robinson 作の庭にやってくるリスと女の子の交流物語で、リスがお茶にやってくる場面では、実際そこで同座しているようなくつろいだ温かい雰囲気がかもしだされている。生態に忠実に描かれたリスの多様な姿が自然で楽しい。

II-04-06 **When It Rained Cats and Dogs**

438

Nancy Byrd Turner 文/Tibor Gergely 絵 J. B. Lippincott 1946 1v 26cm



詩人 Nancy Byrd Turner (1880-1971)は、“It rains cats and dogs.”(「降ればどしゃぶり」の慣用句)に想を得て、2行ずつ韻を踏んだリズムのある陽気な物語詩に仕上げた。空からイヌやネコがどんどん降ってきて大混乱が起こるが、それぞれがふさわしい人と出会って住み家を得て大団円に終わる。Tibor Gergely (1900-78)の描いた楽しそうに土砂降りするイヌとネコは、すべて異なる品種で描かれており、発見があり隅々まで楽しめる。当時Gergelyは、“A Little Golden Books”で、現在までロングセラーを続けている乗り物絵本の小さい機関車666 *Tootle*, 1945とタグボート648 *Scuffy the Tugboat*, 1946 (Gertrude Crampton 作、ベル・コレクション所蔵本)を出しており、絶頂期にあった。

II-05-01 **Bermuda in Story and Pictures**

295

Marguerite Henry 文/Kurt Wiese 絵 Albert Whitman 1946 (初版1943) 1v 16cm



Marguerite Henry (1902-97) は、1949年度*King of the Wind*でニューベリー賞を受賞している馬物語の第一人者として著名な作家である。一方、Kurt Wieseは、“The Freddy the Pig”シリーズや*The Five Chinese Brothers*, 1938などのユーモラスなさし絵でも著名で、多才な画家である。この二人がコンビを組み“Pictured Geography”という物語と絵で地理を学習する絵本をリトグラフ印刷で作成している。太平洋上にあるバーミューダ島のほかに、「ベル・コレクション」には、296 *British Honduras*, 1946 (『英領ホンジュラス』)と294 *The Bahamas*, 1946 (『バハマ諸島』)が所蔵されている。いずれにも地図が入っているがアメリカに近い位置にあって、全く違った風土と歴史を持っている。ヴィーゼの美しい絵を楽しむ画集でもある。

II-05-02 **Henner's Lydia**

330

Marguerite de Angeli 作 Doubleday 1946 1v 21cm



Marguerite de Angeli (1899-1987) は、歴史物語*The Door in the Wall*で1950年度のニューベリー賞を受賞しているが、1920代から活躍している息の長いさし絵画家、作家である。本書の初版は1936年、アーミシュの少女リディアを主人公にして、その日々の暮らしや学校生活、市での物産の販売などを詳細に描いた絵物語である。アーミシュは電気や自動車など現代技術文明を拒否して中世風の質素な暮らしを実践している平和主義者の集団でConestoga Valley (ペンシルヴェニア州)を現地取材して制作された。美しくリトグラフ印刷された絵が添えられている。デ・エンジェリの反進歩主義への共感が伝わる。現地では今も変わらない光景が見られるという。

II-05-03 **Too Big**

333

Ingri D'Aulaire 作/Edgar Parin D'Aulaire 作 Doubleday, Doran 1945 1v 20cm



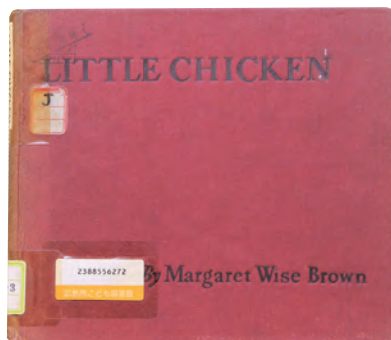
イングリ (1904-80) とエドガー (1898-1986) のドーレア夫妻は、ヨーロッパからの移民であるが、リンカーンの伝記*Abraham Lincoln*で1940年度のホルデコット賞を受賞しており、一作毎に絵本の可能性を拓いていった絵本作家である。本書は、幼児が成長していくとき、洋服や靴が合わなくなるのを“Too Big”という言葉で表現しながら、絵の明るい色調で大きくなっていく未来を楽しそうに示している。表紙そのものが、絵本の世界への導入になっており、手書きの文字で文を入れ、素朴で温かい絵にはユーモアも入っており、成長する喜びがあふれている「手作り絵本」である。「本書の絵は、画家が直接リトグラフ刷りし、4色刷カラー印刷された」と巻末に記されている。

II-05-04

Little Chicken

418

Margaret Wise Brown 文／Leonard Weisgard 絵 Harper & Brothers 1943 1v 18cm



Margaret Wise Brown (1910-52) は、多くの画家に絵本にふさわしい物語を提供してきた。本書は、殻を割って生まれてきたひよこがうさぎと出会い父さんにするが、父さんうさぎが出かけた時、テントウムシ、毛虫、ビーバーなど次々と遊び相手を探して遍歴し、ひよこは元のうさぎのところに戻る、ブラウンにしては平板な物語である。しかし、Leonard Weisgard (1916-2000) の絵は、美しく非凡である。物語が先行していたアメリカの絵本に、絵の魅力で見せる絵本が生まれたのである。同じブラウンとワイスガードのコンビによる絵本が、「ベル・コレクション」には次項の2冊あるが、文と絵の関係性が一作毎に変化しており、アメリカの絵本が黄金時代を迎える前触れとして興味深い。

翻訳：『ともだちでできたかな?』マーガレット・ワイズ・ブラウン作／レナード・ワイスガード絵／各務三郎訳 えほん・ドリームランド 岩崎書店 1984

II-05-05

Red Light, Green Light

954

Golden MacDonald 文／Leonard Weisgard 絵 Doubleday 1944 1v 20cm ☆



横長の大型絵本である。作者の名前がGolden MacDonaldとなっているがMargaret Wise Brownのペン・ネームである。文は“Red Light/Green Light/ Good Morning”と信号に挨拶するところから始まって、リズムのある言葉にのせてその道を車が通っていき、“Red Light they can't go./ Green Light they can go.”で一息、また、別の一群が登場して一息と展開していく。ワイスガードの絵は、茶系統の色の濃淡の情景に、信号の色と呼応するように、ところどころに赤と緑が使われていて、横長の画面が右へ右へと変化していき、また、文には出ていないユーモアのある絵や細かな発見を用意してくれている。

翻訳：『あかいひかり みどりのひかり』マーガレット・ワイズ・ブラウンさく／レナード・ワイスガードえ／谷川俊太郎やく 童話館 1994

II-05-06

The Little Island

331

Golden MacDonald 文／Leonard Weisgard 絵 Doubleday 1946 1v 20cm



著者名のGolden MacDonaldはMargaret Wise Brownのペン・ネームである。左ページには、数行の詩と右ページの絵と呼応するようなカットが入っており、見開きが一体化して一場面ごとに島のさまざまな角度からの美しい情景が展開されていく。島の季節の移り変わり、やってくる鳥や魚、木や草や花が描かれ、完璧な美しい島が存在している。本書の表題紙の裏には、「初版」とあり、ページの下部に小さい文字で、リトグラフを制作した会社の名前が出ている。技術を要するリトグラフでできた絵本は、40年代に「複製芸術品」になっている。

1947年度コルデコット賞受賞作。

翻訳：『ちいさな島』ゴールデン・マクドナルドさく／レナード・ワイスガードえ／谷川俊太郎やく 童話館出版 1996

II-06-01 **Snow White and the Seven Dwarfs**

323

Wanda Gág 英訳・絵 Coward-McCann 1938 43p 21cm



グリムの白雪姫は、お姫さま人気もあって数え切れないほど絵本化されている。『100まんびきのねこ』（1928）で、アメリカの最初の創作絵本作家として認知されていたガアグがその独特の絵で自らグリムの白雪姫の再話に取り組んだのは、ディズニーのカラー長編アニメ映画（1937）を見て、昔話として失われたもののあまりの多さに危機感を持ったからだと言われている。たしかに、ディズニーとガアグの小人だけを比較してみてもその相違は明らかである。耳で聞いてわかる昔話をどう絵本化するかの論議をよんだ初期作品となった。

翻訳：『しらゆきひめと七人の小人たち』ワンダ・ガアグ再話・え／うちだりさこやく 世界傑作童話シリーズ 福音館書店 1991

II-06-02 **The Story of Ferdinand**

681

Munro Leaf 文／Robert Lawson 絵 Viking press 1936 1v 21cm



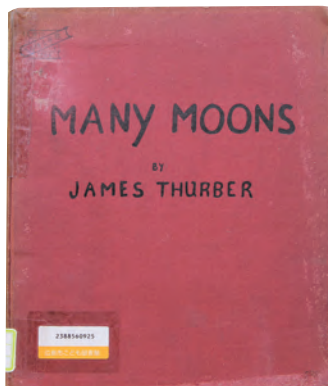
闘牛場で戦わずに花のおいを嗅いでいるフェルディナンドの物語は深い思想性が読み取れ、単色のペン画による余白を効果的に使った斬新な構図の絵と相まって、出版後80年を経た今もその新鮮さを保っている。最初は、スペイン内戦に抗議した「反戦絵本」とみなされ、発売禁止にした国もでたが、現在では、平和を愛するシンボル、生き方の多様性を認めるなど幅広い受容がなされている。後に、作者リーフは『みんなの世界』、画家ローソンは『ウサギが丘』など、文と絵をひとりでこなす作家として活躍している。第二次世界大戦後の日本の絵本制作に大きい影響を与えた絵本でもある。本書は初版3刷本。

翻訳：『はなのすきなうし』マンロー・リーフおはなし／ロバート・ローソンえ／光吉夏弥やく 岩波の子どもの本11 岩波書店 1954

II-06-03 **Many Moons**

415

James Thurber 文／Louis Slobodkin 絵 Harcourt, Brace And Company 1943 1v 26cm



著者James Thurber（1894-1961）は、当時、雑誌「ニュー Yorker」の寄稿者としてそのユーモアのあるマンガや短編で人気を集めていた。そのサーバーが子ども向けに書いた最初の童話である。お月さまがほしいというレノア姫の願いを王さまや家来は智恵をしぼってかなえようとする話に、彫刻家で作家、さし絵画家（『百まいのドレス』エレナー・エステイス作／石井桃子訳、岩波書店、2006など）のLouis Slobodkin（1903-1975）がさし絵を担当している。べったりと描かれた絵ではなく、繊細で軽やかなタッチの絵は、物語に沿って巧みに入れられていて新鮮である。1944年度コルデコット賞受賞作。

翻訳：『たくさんのお月さま』ジェームズ・サーバー文／ルイス・スロドキン絵／なかがわちひろ訳 徳間書店 1994 ほか

II-06-04 **Small Rain**

680

Jessie Orton Jones 選／Elizabeth Orton Jones 絵 Viking Press 1945 (初版1943) 39p 23cm

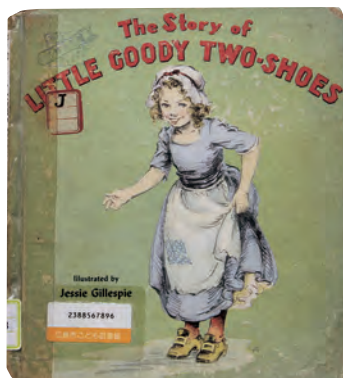


Elizabeth Orton Jones (1910-2010) は、*Prayer for a Child*による1945年度のコレデコット賞受賞画家であり、聖書から採られた詩句を入れた本書もその候補作であった。ジョーンズは書評誌*Horn Book Magazine*を主宰するB. M. Miller夫人の友人として、その「良質の本を子どもに」に共感して、キリスト教徒の家庭にふさわしい絵本作りをした。本書は、美しい言葉と絵で、天地を創造された神さまが、日常の暮らしのなかにも居られて守ってくださるという感覚を身につけるよう意図されている。宗教について教えるよりは、幼いころから神を受け入れる感受性を育てようという考えである。

II-06-05 **The Story of Little Goody Two-Shoes**

396

Jessie Gillespie 絵 Grosset & Dunlap 1944 34p 21cm

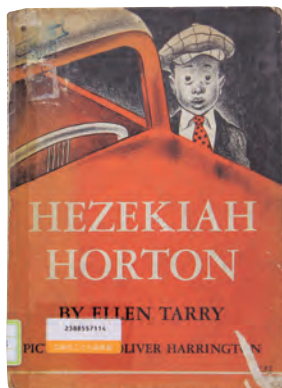


この絵本の原作は、イギリスで1765年にジョン・ニューベリーが出版した小型本で、子どものために書かれた最初の長編創作物語として、18世紀を代表するロングセラーの児童書である。それが200年近く経ってもまだアメリカで再話され1944年に「ベル・コレクション」に複本が3冊もある絵物語になっているのには興味をひかれる。貧しい女の子が文字を学び、努力によって成功する話であるのと、靴が片方しかない女の子が新しい靴を贈られたとき感動して“Goody Two Shoes!”と叫んだのがそのまま名前になっているのもおもしろく昔話のように語り継がれたようだ。さし絵は丁寧で動きがあり、再話も原作よりなめらかに進行していき分かりやすい。

II-06-06 **Hezekiah Horton**

677

Ellen Tarry 文／Oliver Harrington 絵 Viking Press 1942 39p 24cm

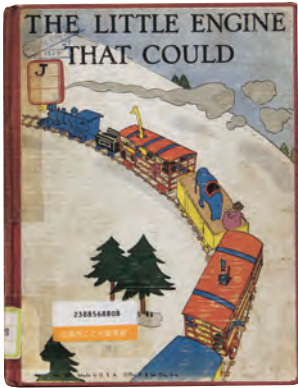


「本書」が目されるのは、作者も画家も共にアフリカ系アメリカ人であることである。Ellen Tarry (1906-2008) は、ハーレムで活動するジャーナリストで、大学に入りMargaret Wise Brownとともにお話作りを学んでいる。それまで中産階層の子どもが主な読者であった当時の子どもの本には、黒人は笑いをとる対象として登場しており、現代の実際にいる子どもは登場していなかった時代である。Oliver Harrington (1912-95) は、風刺マンガ家で、黒人の公民権を得る活動家でもあった。ハーレムに住む黒人の少年が、自動車に強いあこがれを持ち、いつか自分の車を持ちたいと願っているところへ親切な男があらわれ、新車に乗せてもらう単純な物語であるが、等身大の黒人少年が主人公である。

II-07-01 **The Little Engine that Could**

493

Watty Piper 再話／Mabel C.Bragg 原作／Lois L. Lenski 絵 Platt & Munk 1930 1v 21cm



本書は、小さい機関車が故障して動けなくなった列車を “I think I can, I think I can.” と言いながら引っ張って山を越えていき、やり遂げたときには “I thought I could, I thought I could.” となる学校などでよく読まれている物語の最初に絵本になった版である。「ベル・コレクション」には5冊所蔵されており、その人気のほどがうかがえる。表題紙にはWatty Piper再話と書かれているが、本名はArnold Munkで本書の出版者であった。さし絵を担当しているのは、乗り物絵本を多数制作しているLois L. Lenskiで、その第1作である。本書はアメリカで「教師が推薦する本100選」に入っており、『機関車トーマス』など「機関車絵本」の先駆である。

翻訳：『ちびっこきかんしゃ だいじょうぶ』ワッティイー・パイパー文／ローレン・ロング絵／ふしみみさを訳 ヴィレッジ・ブックス 2007

II-07-02 **The Little Sail Boat**

467

Lois Lenski 作 Oxford University Press 1937 1v 19cm



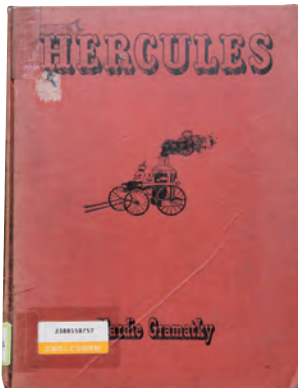
Lois Lenski (1893-1974) の “Mr. Small” シリーズの2巻目にあたるのが本書である。必要最小限に省略された明快で美しい絵で、船長のスモールさんがヨットに乗って過ごす一日を描いている。楽しくページを繰りながら、ヨットの乗り方などもわかってくる「乗り物絵本」である。「ベル・コレクション」には、465 *The Little Airplane*, 1938と 468 *The Little Train*, 1940 が所蔵されており、最新の乗り物であった『ちいさいひこうき』と不動の人気を誇る『ちいさいきかんしゃ』には、愛読された痕跡が残っている。

翻訳：『ちいさいヨット』ロイス・レンスキーぶん・え／わたなべしげ おやく 世界傑作絵本シリーズ 福音館書店 1971 (カラー新版 2005)

II-07-03 **Hercules**

505

Hardie Gramatky 文・絵 G. P. Putnam's Sons 1940 1v 25cm



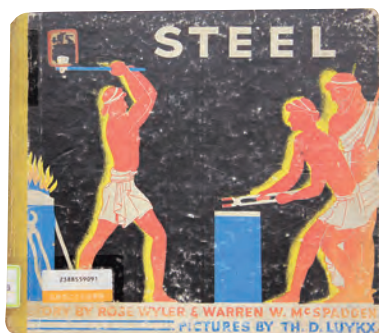
Hardie Gramatky (1907-79) は、水彩画家として著名であるが、乗り物の絵物語の作家としても長く愛読される作品を残している。その第1作は、*Little Toot* (1939、訳名『ちびっこタグボート』) である。第2作の *Hercules*の主人公は、3人の消防士が3頭の馬で引っ張って動かす旧式の消防ポンプで、新しい消防自動車のおかげで出番がなくなっている。しかし、大火事の際、一番に駆けつけて活躍する。動きを表現する独自の絵と迫力ある色使い、情景の見事さでロングセラーになっている。「ベル・コレクション」には507 *Loopy*, 1941 (訳名『ルーピーのだいひこう』) も所蔵されており、練習用の飛行機ルーピーが主人公である。

翻訳：『がんばれヘラクレス』ハーディー・グラマトキーさく／わたなべしげおやく グラマトキーののりものどうわ5 学習研究社 2005 (初訳：新しい世界の幼年童話10 1968)

II-08-01 Steel

395

Marguerite Engler Schwarzman 作/Th.D.Luykx 絵 Grosset & Dunlap 1937 1v 22cm

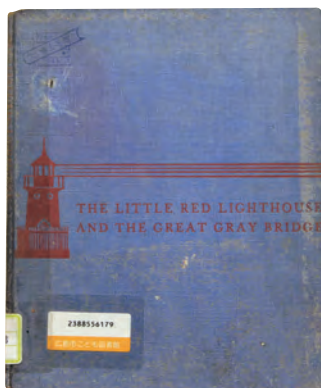


かわいいネコ絵本や絵物語が主流であったアメリカの子どもの本は1930年代から変化していくが、そのことがよくわかるのがこのSteel（『はがねの本』）でOil Comes to UsとElectricity Comes to Usとの3部作として刊行された。文の担当者はそれぞれ違うが、絵はTh. D. Luykxがすべて担当し、3部作としての統一感を保っている。当時のハーフトーン（網点）による印刷技術を活かして、墨と赤の2色刷のところでは工場内で働く労働者の姿が描かれ、カラー・ページではダイナミックな俯瞰図や大掛かりで複雑な工場の機械などが細密な絵で展開されている。石油・電気・鉄を駆使して発展する工業の時代が凝縮されている。

II-08-02 The Little Red Lighthouse and the Great Gray Bridge

414

Hildegard H.Swift 作/Lynd Ward 作 Harcourt Brace 1942 1v 22cm



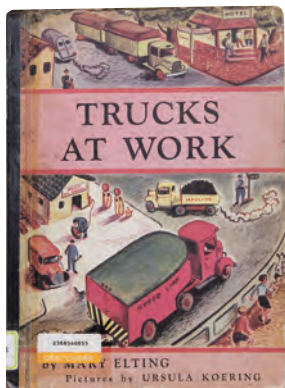
ハドソン川にある「小さな灯台」は巨大なワシントン橋の建設によって役割を終えたと考えられていたが、その小ささ故に遭難事故を回避できたという実話に基づいた絵本である。左ページに物語、右ページ全面に絵という単純な構成で、灯台の存在を印象づけていく。文章は語り口調でわかりやすく、動かない灯台を物語のヒーローとして活躍させる。さし絵は、木版画家として著名で、『おおきくなりすぎたくま』など子どもの本でも後に活躍するLynd Ward (1905-85) である。ウォードの絵は、灯台の赤が空と水の青に映え、岩や橋などの墨色が画面をひきしめており、静と動の表現が卓越している。1948年に灯台が競売されようとしたときに、この絵本の愛読者からの猛反対で存続が決まり、現在、ニューヨークの名所になっている。

翻訳：『ちいさな赤いとうだい』ヒルデガード・H・スウィフトぶん/リンド・ウォードえ/掛川恭子やく B L出版 2004

II-08-03 Trucks at Work

956

Mary Elting 文/Ursula Koering 絵 Garden City Publishing 1946 1v 28cm ☆

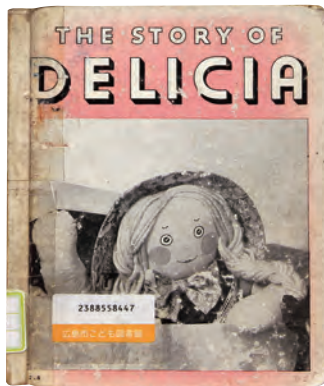


乗り物絵本には、図鑑から物語まで幅広くあるが、本書は、おもしろく語りながらトラックの魅力に迫るMary Eltingの文が巧みで、トラックの運転手さんたちが使うFunny Wordsのリストやその仕事ぶりなども含まれた内容になっている。また、Ursula Koeringの多色と赤・黒2色刷が交互にあらわれる絵は、文とよく調和しており、多色刷りの見開きを使った場面は、それぞれに物語があり迫力が出ており、2色ページには細かいカットが多く使われ、カラー・ページとは違った楽しさを出している。多色刷りには、リトグラフが使われているので、文と絵を共に活かすことは技術的に難しいが、子どもの本づくりのベテラン・コンビによって、40年代らしい新しい乗り物絵本ができています。

II-09-01 **The Story of Delicia**

545

Gertrude Newman 文/Russel Benson 写真 Rand McNally & Company 1935 1v 17cm

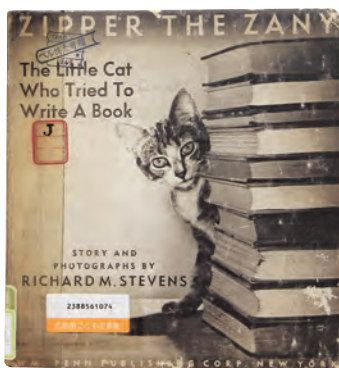


1930年代は、小型カメラやフィルムが普及し、写真術が身近になり、写真絵本が新しい表現として試された時代である。この作品は、Gertrude Newman文、Russel Benson写真による布の人形Deliciaがバーバラに買われた月曜から始まって一週間の暮らしを、左に文、右に写真で展開している人形絵本である。途中で弟のAdolphusが加わるが平板な場面が続く。現在の目で「平板な」と記述したが、素朴なRag Dollを主人公にしての模索が見て取れる。10年後に出版された675 *Judy at the Zoo*, 1945と比較すると、動物園でのJudyの姿には動きがあり、自然光のなかで楽しむスナップが駆使されており、写真技術の進歩がよく分かる。

II-09-02 **Zipper the Zany**

707

Richard M.Stevens 文・写真 WM.Penn Publishing Corp. 1945 1v 20cm

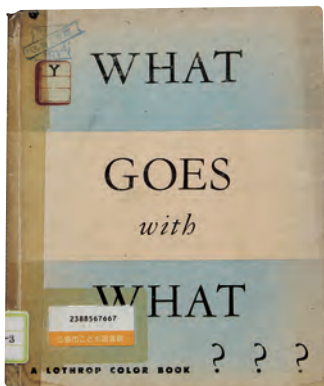


副題に“The Little Cat Who Tried to Write a Book”とあるように、いたずらな子ネコが、ある日、本棚で遊んでいて、本を書こうと思いつき、実行する物語になっている。左ページの文章は多弁ではなく、右ページのネコのジッパーの写真から多くが伝わってくる。タイプライターを打って本を書いている姿の写真もあるが、いたずらをして紙袋に隠れて叱られないかとこちらを見つめる子ネコの様子や物語の最後のページを飾るジッパーのポートレートは、毛並みの一本一本までうまく撮れていて、写真集としてもすぐれている。現在も写真に古さを感じないので子ネコのかわいい写真を楽しむ「写真版ネコ本」と言えるだろう。

II-09-03 **What Goes with What**

439

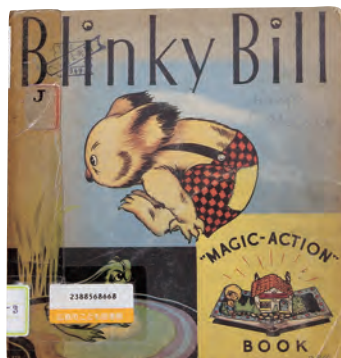
George A.Adams 作 Lothrop, Lee & Shepard 1946 1v 21cm



George A. Adamsによる本書は、副題に“A New Playbook in Color Photography”とあるように、全ページカラー写真を使った新しい時代の「知育絵本」である。例えば、左ページに1ページ大でボートの写真があり、右ページでは、三枚の写真からボートをこぐのに必要な道具カイを選ぶ。どの場面でも当てはまらない道具にも問いかけがあり、言葉を覚えるのが楽しい時期の子どもと会話しながらその世界が広がるように作成されている。30~40年代にかけて、アメリカの知識絵本は、教育現場と協力しながら、子どもの興味を引き出す工夫をしてきたが、もっとも多いのが身近な素材から入ることであった。この絵本を通して、大戦直後の家庭を想像することもできる。

II-10-01
685**Blinky Bill**

Racine Whitman 1935 25p 20cm



表紙に“Magic Action Book”というシリーズ名とそのしかけの内容を誇らしげに例示しているが、現在ではページを開くと絵が飛び出すしかけは“Pop-up”と総称されている。まだ、その用語が確立していない1935年という出版年の判明するポップアップ絵本が現存するのは非常にまれである。「プリンキー・ビル」は、最初、オーストラリアのドロシー・ウォール文／絵の絵物語として出版（1933、『いたずらプリンキー』ドロシー・ウォールぶん・え／井出弘子やく 童心社 1972）され、アメリカで映画によって人気キャラクターとなった。主人公を大きく描いた*Blinky Bill*には、コアラのかわいらしさがよく表現されている。しかけは、2ヶ所である。同じシリーズの686 *Bunny Boy*でも、男の子のウサギのキャラクターが躍動しており、単純なしかけと安価な印刷で人気シリーズであった。

II-10-02
521**The Funny Hat**

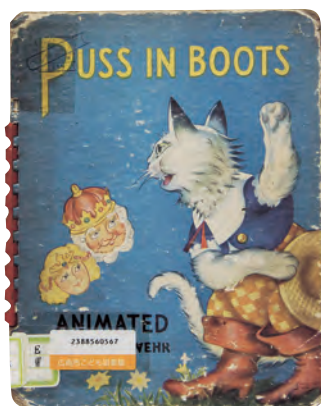
Marjorie Barrows 文／Norv Mink 絵 Rand McNally 1943 1v 20cm



表紙を見ると、サルが大きい赤い帽子を頭の上にかかっている様子が見える。ページが帽子の形にカットされていて、石膏製の帽子は裏表紙の内部に貼付されている。物語の進行とともに、ページを繰ると、その帽子は別の場面で巧妙に使われている。物語が楽しく、後に、しかけのない絵本にもなっている。本に細工を入れるということでは、523 *The Gentle Giraffe*, 1945がある。“Slottie Library”というシリーズの1冊で、巻末にボール紙でできたキリンのGentleman Geraldと姪のGinny Giraffeが切り抜けるようになっていて、都会での冒険の物語から抜け出して、ボール紙のキリンと遊ぶことができる。

II-10-03
714**Puss in Boots**

Julian Wehr 動画（出版者不明）1944 1v 22cm



Julian Wehr (1898-1970) は、タブを引っ張って動かす仕掛けを安価に作る工夫をし、しかけ絵本を約30作品残している。タブは画面のいろいろなところで、上下だけでなく、左右、前後など多様に動き、絵の魅力もあってその人気と評価は高かった。『長靴をはいたネコ』には、6場面にタブがあり、ページをめくり、自分でタブを動かして、よく知っている昔話を何度も繰り返し楽しんだ痕跡が残っている。ほかに『ジャックと豆の木』『赤ずきん』『しょうがぼうや』などを制作した。また、682 *Raggedy Ann and Andy with Animated Illustrations*のように当時人気のあった物語（ほかに『ちびくろサンボ』や『ピーターラビット』など）も手掛けており、読むのが苦手な読者を本の世界へ誘った。

II-11-01 **Walt Disney's Bambi**

407

Walt Disney Production 作 Grosset & Dunlap 1942 21p 22cm



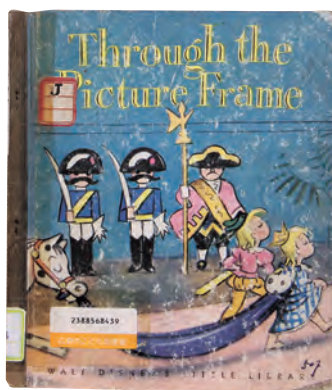
オーストリアのザルテン作『バンビ』(1923)が、アメリカで翻訳されたのは1929年である。1942年、その原作をディズニー社が映画化してバンビは一躍人気キャラクターになった。そして、その原作を提供した同じ出版社がディズニー映画の絵を使って絵本化したのが、このディズニー絵本である。カラー・ページは幻想的で美しく、単色のページでもバンビの姿をうまく挿入している。森で誕生した子鹿の成長物語は、バンビのキャラクターづくりの可愛さで見るものを魅了した。日本でも「小鹿のバンビ」という童謡がヒットするほどであった。

翻訳：『ウォルト・ディズニーのバンビ』フェリックス・ザルテン原作
／アイデラ・パーネル編著／菊池重三郎訳 世界の絵本 中型版14
新潮社 1951(©1944とありGrosset & Dunlap社版の翻訳ではない)

II-11-02 **Walt Disney's Through the Picture Frame**

669

Robert Edmunds 脚色／Hans Christian Andersen 原作／Walt Disney Studio 絵 Simon and Schuster 1944 1v 20cm



アンデルセン童話のなかに「オーレ・ルゴイエ(眠りの精)」がある。オーレ・ルゴイエが一週間毎晩ヤルマルという子どものところに来て話をする7話のなかに、タンスの上にかかっている絵のなかに入って行く物語がある。それをRobert Edmundsが再話し、ディズニー社が絵を担当した絵本が本書である。眠れぬ夜、老小人がやってきて、男の子を魔法の傘を使ってファンタジーの世界に連れ出し、優雅に尾を振って歓迎する人魚やポップコーンをくれる竜、言葉を話す馬などに次々に出会いながらお城に閉じ込められたお姫さまを救出して帰ってくる。アンデルセン童話はアニメ・クリエイターにとって題材の宝庫であった。“Walt's Disney's Little Library”シリーズの1冊である。

II-11-03 **Walt Disney's Uncle Remus**

968

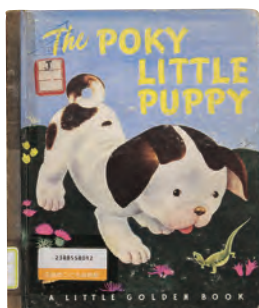
Bob Grant 絵／Marion Palmer 再話／Joel Chandler Harris 原作 Simon and Schuster 1947 1v 20cm ☆



この作品は、J. C.チャンドラーをモデルにしたディズニーの実写とアニメを併用した映画“Song of the South”1946がもとになっている。リーマスおじさんのお話部分がアニメでその絵を担当したのはマンガ家Bob Grant(1916-68)である。その笑いが聞こえてくるような明るく動きのある絵は、ディズニー動画の本流と言える。Marion Palmerの再話は、原話の南部なまりを残しながらリズムがよく、声に出して読むと楽しさが増す。自分の賢さに自信を持っているウサギが、ずるいキツネと強いクマの企みに乗せられて命をとられそうになる3話“Brer Fox an de Rabbit Trap”“De Tar Baby”“Brer Rabbit's Laffin' Place”が入っている。

特集1 “A Little Golden Book” (1942年出版の12作品のなかから)

1 314 The Poky Little Puppy Janette Sebring Lowrey 作/Gustaf Tenggren 絵



1942年創刊の“A Little Golden Book”のなかでもっとも人気があり、60年間で1,500万冊売れ、現在も刊行中の超ロングセラー絵本。「ベル・コレクション」にも複本で18冊あり、その普及ぶりがわかる。人気の秘密は、Janette Sebring Lowreyの響きがよく分かりやすい物語にある。決してオリジナリティのある物語ではないが、それまでにわかってきていた幼年文学の文法を踏まえた幼児にうける要素を最大に活かしており、いたづらを肯定はしないが温かく描いて幼児の読者の側に立っている。ディズニー社で子どもの興味を引き付ける技を磨いたGustaf Tenggrenのさし絵は、可愛らしい子犬の動き、特に表情をうまくとらえ、細部の発見もあって、物語の魅力を高めている。

2 660 Three Little Kittens Masha 絵

シリーズ第1冊目の作品。「三びきのこねこ」はヴィクトリア朝から一冊の絵本になっている著名なマザーグースで、そこにMashaのあたらしい「ネコ絵本」が加わった。白黒ページではネコの動きや直立して読者を見つめる表情が、カラー・ページでは細部の背景が楽しめ、何度、再読しても発見がある。

3 303 Bedtime Stories Gustaf Tenggren 絵

表紙絵の寝る前に姉弟が本を読んでいる場面に注目したい。この習慣が当然のように受け入れられている様子がわかる。中味はChicken Little, The Three Bears, The Three Little Pigs, Little Red Riding Hood, The Gingerbread Manの名作昔話絵本である。Tenggrenの絵は、特にキャラクターの目つきが見どころである。

4 302 The Animals of Farmer Jones Leah Gale 文/Rudolf Freund 絵

幼児の人気をひきつけるテーマに農場を訪れて動物に出会う絵本があり、多数作られてきた。博物学に造詣の深いRudolf Freundが描いた9種類の動物とは、最初空腹で飼い主のJonesさんを探している場面で出会い、折り返しで餌をもらって満足している場面でもう一度出会える。精密な絵を二度じっくりと味わえて満足が得られる。

5 301 The Alphabet from A to Z Leah Gale 文/Vivienne Blake 絵

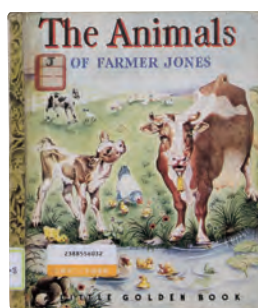
ABC絵本の歴史は長く、数えられないほど多数制作されている。初期12冊の“A Little Golden Book”にも当然必要なものであったが、この作品はそれほど人気でなかった。身近なものをAから順に登場させるが平板で、言葉も凡庸、絵も言葉で分かる内容だけを伝え、発見もユーモアもない。平均点はあるという作品の例である。



2



3



4



5

すべて Simon and Schuster 1942 1v 20cm

特集2 Mother Goose絵本、A Child's Garden of Verses、詩集

2-1 Mother Goose絵本



1



2



3



4

1 **123** **Ring O' Roses; A Nursery Rhyme Picture Book**

L. Leslie Brooke 絵 Frederick Warne
(出版年不明、初版1900) 1v 26cm

2 **470** **Mother Goose**

Tasha Tudor 絵 Oxford University Press 1944 87p 19cm

3 **135** **The Tenggren Mother Goose**

Little Brown 1940 133p 28cm

4 **963** **The Rooster Crows; A Book of American Rhymes and Jingles**

Maud Petersham 作・絵/Miska Petersham 作・絵
Macmillan Company 1945 1v 27cm ☆

Ring O' Roses(1)は、イギリスの絵本の歴史のなかで、コルデコットの流れを継承する「物語る絵」の匠レズリー・ブルックによる古典的な作品である。21編入っているがユーモアがあって表情豊かなキャラクターたちが、読者をマザー・グースの世界へ誘い込む。ターシャ・テューダーの絵本(2)は、同じイギリスでもかわいい子どもと花で装飾された絵に特徴のあるケイト・グリーンナウェイの系譜であるが、躍動感のある子ども像に違いが見られる。76編入っており、コルデコット賞の候補作であった。タングレンは、スウェーデン系移民の画家で、最初の*Mother Goose* (Houghton Mifflin,1929)と1939年ディズニー・スタジオを辞したあとの1940年版(3)の作風を比較してみると大きな相違が見られる。アメリカの家庭に常備したい作品として定評を得た。ハンガリー系のピーターシャム夫妻のもの(4)には、“A Book of American Rhymes and Jingles”と副題があり、1946年度のコルデコット賞を受賞している。遊び唄集で、元気に遊ぶ子どもも風景もアメリカを意識したものになっている。

Mother Goose; Health Rhymes(5)は、1ページ毎に、健康に役立つ教えを1行入れている。例：“Old Mother Goose”「新鮮な空気と日光を」、「Miss Mary, Quite Contrary」「毎日緑野菜を食べよう」あとの4作品は、家庭で気軽に手に取られていた作品と考えられる。1942年の*Mother Goose*(6)と*Nursery Songs*(7)、“A Little Golden Book”が初めて出版した12冊に含まれていた作品で、後者は、アメリカで愛唱される歌(フォースターの「オー・スザンナ」なども)が楽譜入りで入っている。

5 **299** **Mother Goose; Health Rhymes**

C. M. Bartrug 文/Marjorie Peters 絵
Albert Whitman 1942 32p 18cm



5

6 **619** **Mother Goose**

Phyllis Fraser 選/Miss Elliott 絵
Simon and Schuster 1942 41p 20cm

7 **627** **Nursery Songs**

Leah Gale 編曲/Corinne Malvern 絵
Simon and Schuster 1942 41p 20cm



6



7

8 **491** **Favorite Mother Goose Rhymes**

Platt & Munk 1929 1v 27cm



8

9 **320** **Tommy Tittlemouse; Nursery Rhymes**

Katherine Evans 絵
Childrens Press 1947 1v 20cm



9

特集2 Mother Goose絵本、A Child's Garden of Verses、詩集

2-2 A Child's Garden of Verses

R.L.ステューブソンが1885年に刊行した*A Child's Garden of Verses*は、子どものための創作詩集として英語圏を中心にもっともよく知られており、さし絵画家の百花繚乱の場でもある。Storerによる1909年版(1)は、カラー・ページの自然の風景のなかの子どもの姿の構図は一幅の絵のように美しく、何度も版を重ねた。また、Eulalieによる1929年版(2)も30年代に人気がありミリオンセラーになっている。

1945年には、アールデコ調の絵を得意とするPeter Mabieが新しい境地を開いた全ページカラー版(3)と、40年にオーストリアから移住したErika Weihsの作品(4)が加わった。5は、表紙絵は別人のもので、中味は4のさし絵を切り貼りして使った廉価版である。

翻訳：英詩の入門書として使われ、対訳本などが出ている。詩集としての訳：『ある子どもの詩の庭で』
ロバート・ルイス・ステューブソン詩／イーヴ・ガーネット絵／まさきりこ訳 瑞雲舎
2010



1



2



3



4



5

- 1 **131** Florence Edith Storer 絵 Scribner 1923 (初版1909) 115p 20cm
- 2 **130** Eulalie 絵 Platt & Munk 1929 85p 26cm
- 3 **428** Peter Mabie 絵 John Martin's House 1945 1v 23cm
- 4 **327** Erika Weihs 絵 Domesday Press 1945 1v 20cm
- 5 **559** Erika Weihs 絵 Samuel Lowe Co. 1945 1v 17cm

著者・書名はすべて、Robert Louis Stevenson: *A Child's Garden of Verses*

特集2 Mother Goose絵本、A Child's Garden of Verses、詩集

2-3 詩集

379 Favorite Poems

Eugene Field 詩／Malthe Hasselriis 絵 Grosset & Dunlap 1940 1v 23cm



アメリカで子どものための詩人という19世紀の詩人“Poet of Childhood”と呼ばれるEugene Field(1850-95)の名が挙がる。雑誌や新聞などに多数の詩を残しているが、そのなかから人気のある詩、Little Boy Blue, “Fiddle-Dee-Dee”、Good-Children Streetなどを集めた詩集である。デンマーク出身の細密画でも著名なM. Hasselriisのさし絵は、表紙絵、タイトル・ページから独自の詩の世界へ引きこむ力を持っている。「ベル・コレクション」にはほかに、二編の詩だけのパンフレットのような561 *The Gingham Dog and Calico Cat* (Samuel Lowe, 1943) (タイトル詩と“The Sugar Plum Tree”)が入っている。

特集3 Little Black Sambo絵本

1 326 The Story of Little Black Sambo

Helen Bannerman 原作 Davi McKay 1931 59p 22cm



唯一、原著者ヘレン・バナーマンの作品であるが、小型本を拡大した版で、「はしがき」が付加されている。インドにいた作者が日常で出会うインドの暮らしをリアルに描いた上で、子どもを喜ばせようとお話を面白くしたのだと説明している。原著のさし絵が拡大されたことで、グロテスクな奇妙な感じを与えると考えたのであろうか。当時、子どもが手のひらサイズの小型本を愛好することに気付いていなかったのであろう。

2 528 Little Black Sambo Rand McNally 1938と1944年版の2冊(初版1927) 64p 17cm

「ちびくろ・サンボ」の人気がよくわかるのが、Rand McNally 社版である。初版が1927であるが、表紙の印象が全く違うこの2冊の中味は同じもので、1938年と1944年版がある。さし絵は2枚で、いずれもトラと遭遇する場面である。ほかに、The GingerbreadとTitty Mouse, and Tatty Mouseの2話が入っている。



3 204 The All about Story Book Johnny Gruelle 絵 1929 63p 25cm

12話のよく知られているお話を4ページに手際よく再話し、1ページに2枚のさし絵が入っている。そのトップが“All about Little Black Sambo”である。絵の半分がトラとの遭遇場面で、表情豊かなトラととまどうサンボのドラマが手際よく展開されている。

4 555 Little Black Sambo Fern Bisel Peat 絵 1932 1v 22cm

他の画家とは全く違ったサンボである。表紙に“Calico Classics”とあるので布で創るRag Dollとして描いているようだ。Fern Bisel Peat (1893-1971) は、前年の1931年にリアルな男の子としてサンボを描いた絵本を出しているの、そこからの展開だったのだろう。

5 441 Little Black Sambo c.1944 1v 21cm

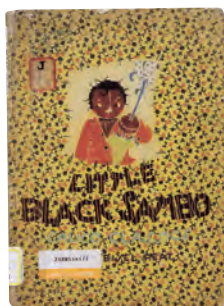
出版年は不明であるが、1944年にクリスマスプレゼントとして贈られた記録が入っている。24枚の1ページ大のカラーの絵で歯をだして笑う典型的な黒人が多く描かれている。

6 420 Little Black Sambo Marjorie Romyns 絵 1945 1v 20cm

サンボの世界を現代において、ミシンで服を縫うマンボ、箱入りの商品としての傘や靴を持つジャンボが登場してくる。アメリカの家庭にサンボが定着した様子がうかがえる。



3



4



5



6

特集4 Peter Rabbit絵本



- 1 **442 Peter Rabbit** M.A. Donohue 版 (出版年不明) 1v 21cm

1920年代に出版された原著者の許可を得ない「豪華な」海賊版。絵の部分を模写して、27枚の絵すべてに安価なカラーを載せて印刷している。ポターの繊細な色使いの原本とは比べようもない。



- 2 **538 Peter Rabbit** Rand McNally 刊 1934 64p 17cm

昔話Henny Pennyと Puss in Bootsとの合本で、1話16ページで片面は全ページ大のカラーの絵(4枚)である。絵が四角い枠で囲われているため、絵本のページを繰る楽しみが損なわれている。



- 3 **454 Adventures of Peter Rabbit** McLoughlin Bros 版 1938 1v 17cm

“The Little Color Classics”シリーズの1冊。物語が極端に単純化されており、面白さが伝わらない。表紙の絵と中の絵の画家は異なっており、様式的で動きのない原色だけの絵はげげしい。



- 4 **402 The Tale of Peter Rabbit** Masha 絵 Grosset & Dunlap 1942 1v 24cm

上記の3冊と比較すると、オリジナリティを感じさせるMashaの表紙絵である。登場するピーターのきょうだいと母が四隅にデザインされていて、ピーターの住む世界が奥に広がっていて導入としてよく考えられている。カラーページと単色のページが交互に組まれている。1940年代になってもまだ、幼児向けの絵本は、いわゆる可愛い絵が求められていた。うさぎの毛のふわふわ感が巧みで、新人ながら、同年、“A Little Golden Book”の第1冊目でネコの画家として起用されている。

特集5 『クマのプーさん』のアメリカにおける人気

「ベル・コレクション」には、名作の原著書がほとんど見られず、改版や海賊版になっているものが多いなかで、A. A. ミルン作品の3作が原著で入っているのは偶然ではない。

20世紀初頭、ルーズベルト大統領がクマ狩りに行って「瀕死のクマを撃つのはスポーツマン精神に反する」と言ったというエピソードから、ぬいぐるみのクマを大統領のニックネーム「テディ」を付けて呼ぶようになり、おもちゃ屋で大々的に売られていたという基盤があったのである。本とグッズの相乗商戦の先駆けでもあった。

- 1 **127 When We Were Very Young** 1946 (237刷、初版1924) 100p

“Teddy Bear”が最初に登場する詩集で、E. H. Shepardのさし絵がユーモアのある詩とよく合っている。スティーブソンンの*A Child's Garden of Verses*とともに、英語圏の家庭の定番詩集になった。



1

- 2 **247 Winnie-the-Pooh** Ernest H. Shepard 絵 1935 (100刷、初版1926) 158p

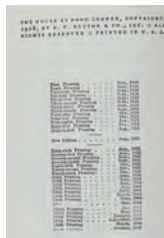
初版から10年の100刷本である。新版の出た1935年だけでも10刷されており、プーさんのキャラクターが家庭で子どもだけでなく、読み手の大人にも愛され、広まっていくデータとして興味深い。



2

- 3 **246 The House at Pooh Corner** Ernest H. Shepard 絵 1947 (137刷、初版1928) 178p

紙不足であった1940年代に入ってもクマのプーさんの人気は衰えるどころか増刷を重ねているのは驚きである。1960年代以降、ディズニー社のアニメ化によって、その人気は拡大、変貌している。〔図3〕は、初版から137刷までの記録が入ったページ。



3

すべて、A. A. Milne作 E. P. Dutton 20cm